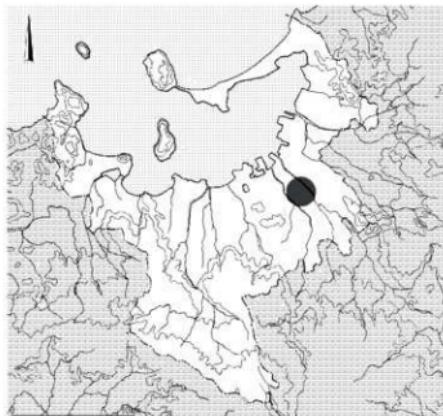


比 恵 75

— 比恵遺跡群第135次調査報告 —



調査番号 1426
遺跡略号 HIE-135

2016

福岡市教育委員会

序

福岡市の中央に広がる福岡平野は、歴史的にみても重要な位置にある地域です。

福岡市では、工事等により現状での保存が不可能となった埋蔵文化財について、記録による保存を図ることとし、そのための発掘調査を行ってきました。本書は、この目的で博多区博多駅南三丁目地内において実施した比恵遺跡群第135次調査の報告書として刊行するものです。

本報告の刊行は、関係各位の埋蔵文化財についての深い御理解と御協力の結果であるとここに記し、心よりお礼申し上げます。また、本書が福岡平野の歴史について理解を深めるための資料として資するところがあれば幸いです。

平成28年3月25日

福岡市教育委員会
教育長 酒井龍彦

はじめに

- 1 本書は、2014(平成26)年度、福岡市博多区博多駅南三丁目地内において福岡市教育委員会がおこなった、比恵遺跡群第135次調査の報告である。
- 2 発掘調査は、福岡市教育委員会が文化財保護法第93条に基づく届け出を受け、埋蔵文化財保存についての協議を行った結果、事業者の依頼により、記録保存を目的として、経済観光文化局文化財部埋蔵文化財調査課が実施したものである。作業は、事業者である照栄建設株式会社を始めとした関係各位のご理解とご協力のもと、円滑に遂行することができた。この場で深く感謝申し上げる。
- 3 発掘調査及び報告は、埋蔵文化財調査課 杉山富雄が担当した。
- 4 出土資料および調査記録は、福岡市埋蔵文化財センターで収蔵管理し、利用に供する予定である。

凡例

- 1 位置の記録は、国土座標(世界測地系)に依った。
- 2 図中に用いる方位は国土座標の座標北である。
- 3 報告中の遺構・遺物番号は、それぞれ登録番号を用い、調査現場での記録から整理、収蔵まで一貫して管理し、台帳・実測図・日誌等調査記録に記載した情報と極力関連づけておくことに努めた。記述中必要に応じて、遺構には「M」、遺物には「R」を付した登録番号を用いた。

| | | | | | |
|--------|-------------------------------------|--------|--------------------|--------|--------------------|
| 遺跡調査番号 | 1 4 2 6 | | | 調査略号 | HIE-135 |
| 調査地籍 | 福岡市博多区博多駅南三丁目 49番 | | | 分布地図番号 | 37 |
| 事業地面積 | 749 m ² | 調査対象面積 | 419 m ² | 調査面積 | 404 m ² |
| 調査期間 | 2014(平成26)年10月14日～2014(平成26)年11月28日 | | | | |

本文目次

前文

| | |
|-----------------------|----|
| 1 比恵135次調査の概要 | 3 |
| (1) 掘調査の経緯 | 3 |
| (2) 比恵135次地点の立地と周辺の調査 | 3 |
| (3) 発掘調査の経過と調査成果の概要 | 3 |
| 2 比恵135次調査出土の遺構と遺物 | 5 |
| (1) 発掘調査 | 5 |
| (2) 比恵135次調査出土の遺構と遺物 | 11 |
| 3まとめ | 25 |

図目次

| | |
|---------------------------------|----|
| 図1 比恵135次地点位置図 (1:50,000) | 3 |
| 図2 比恵135次調査区位置図 (1:2,000) | 2 |
| 図3 比恵135次調査区全体図 (1:200) | 5 |
| 図4 台地部遺構 (1:100) | 6 |
| 図5 比恵135次調査区 (2) 调査 (南東から) | 6 |
| 図6 比恵135次調査区全貌 (南東から) | 7 |
| 図7 1区全貌 (南東から) | 7 |
| 図8 2区全貌 (南東から) | 8 |
| 図9 3区全貌 (南東から) | 8 |
| 図10 2区北東櫛乱部 (南から) | 9 |
| 図11 2区南半部 (南東から) | 9 |
| 図12 1区谷1(G8845)木製品出土状況 (西から) | 9 |
| 図13 1区西壁土層 (北から) | 10 |
| 図14 1区北壁西半部土層 (南東から) | 10 |
| 図15 2区北壁東半部土層 (南東から) | 10 |
| 図16 2区南壁土層 (北西から) | 10 |
| 図17 3区南壁土層 (北西から) | 10 |
| 図18 比恵135次調査区土層図 (1) (1:80) | 12 |
| 図19 比恵135次調査区土層図 (2) (1:40) | 13 |
| 図20 谷1-7層出土遺物 (1:4) | 14 |

表目次

| | |
|-------------------|----|
| 表1 報告遺物観察表 (1) | 26 |
| 表2 報告遺物観察表 (2) | 27 |
| 表3 報告遺物観察表 (3) | 28 |
| 表4 報告遺物観察表 (4) | 29 |
| 表5 報告遺物観察表 (5) | 30 |
| 表6 報告遺物観察表 (6) | 31 |
| 表7 報告遺物観察表 (7) | 32 |
| 表8 報告遺物索引 (遺物番号順) | 32 |

| | |
|-----------------------------------|----|
| 図21 谷1-9層出土弥生土器実測図 (1) (1:4) | 14 |
| 図22 谷1-9層出土弥生土器実測図 (2) (1:4) | 15 |
| 図23 谷1-9層出土弥生土器実測図 (3) (1:4) | 16 |
| 図24 谷1-9層出土石器実測図 (1) (1:1.1:2) | 18 |
| 図25 谷1-9層出土石器実測図 (2) (1:2) | 19 |
| 図26 谷1-9層出土石器実測図 (3) (1:2) | 20 |
| 図27 谷1-9層出土木器実測図 (1:4,1:8) | 21 |
| 図28 谷1出土遺物 | 22 |
| 図29 遺構2 (1:20) | 23 |
| 図30 遺構2出土杭 (1:4) | 23 |
| 図31 遺構2出土杭 | 23 |
| 図32 遺構2 (北から) | 24 |
| 図33 遺構2断面 (南から) | 24 |
| 図34 遺構2断面 (北から) | 24 |

1 比恵 135 次調査の概要

(1) 発掘調査の経緯

埋蔵文化財事前審査 2014(平成 26)年 7 月 30 日付で照栄建設株式会社から福岡市教育委員会あて、福岡市博多区博多駅南三丁目 49 番地内における共同住宅建築に伴い、埋蔵文化財の有無について照会があった。当該地は比恵遺跡群内に所在することから、文化財部埋蔵文化財審査課は、現状建物の解体に際し基礎抜き取り時の立会および確認調査を実施した。その結果、工事予定箇所に埋蔵文化財が遺存することを確認した。これを受けて、設計変更等による埋蔵文化財の現状保存の可能性を検討した。しかし、計画建物基礎が埋蔵文化財への影響を避けることができない構造のものであったことから、事業者の理解と協力を得て、記録保存のための本発掘調査を実施することとなった。

発掘調査 発掘調査は、事業者の委託を受け、比恵遺跡群第 135 次調査(以下、比恵 135 次調査とする)として、埋蔵文化財調査課が担当し、2014(平成 26)年 10 月 14 日着手した。発掘調査は、建築建物による影響を受ける範囲を対象とし、対象区域を 3 区画に分割して廃土置き場を確保しながら調査を進め、11 月 28 日現場作業を完了した。調査面積は 404m²。遺物は、土器類・石器類・木器類合わせてコンテナ 12 箱ほどが出土した。

(2) 比恵 135 次地点の立地と周辺の調査

遺跡の立地 比恵遺跡群は Aso4 火砕流が堆積する中位段丘上に立地する。現状は戦前に行われた区画整理により、北へごくわずか勾配をもった平坦地となっているが、旧状を示す地形図によれば、段丘は複雑に入り組んだ低地により、複雑な形状に分断された台地として残っていた。比恵 135 次地点は、遺跡のなかでも、北西に突出したような区域に位置する。現状は宅地となっているが、上記のとおり人工的な改変の結果である。それは本調査区の土層断面の観察から、区画整理時に存在していた水田面に行われた 0.5 m 程の盛土であったと分かる。さらに調査の結果から、比恵遺跡の立地する中位段丘に入り込んだ谷の東岸に立地していたことが分かった。

既往の調査 図 2 に比恵 135 次地点を中心とした調査区を示す(図中、本地点のほか 130 次・131 次・133 次の各地点は本年度報告、図中には弥生時代から古墳時代までの遺構を表示する)。南西に隣接する 80 次、南の 32 次地点は埋没谷の谷底に位置し、更に南～西の 25 次、130 次、115 次地点は埋没谷の西岸に位置し、24 次地点が、埋没谷の谷頭部の所在を示す。135 次地点の南東に位置する 117 次地点は埋没谷東岸を示し、その延長上に 135 次地点が位置する。また、北東側の 29 次地点は台地部の北縁を示すものと考えられており、これの延長線とこれまで述べた埋没谷の東岸の延長線との交点が開口部を示すものと思われる。135 次地点は、その推定線上に位置することになる。埋没谷の東岸台地は遺構の遺存不良である。西岸は 4 次、26 次、85 次調査で確認された低地までの間が台地となっており、弥生時代の遺構が遺存する。中でも弥生時代前期から中期前半とする遺構が顕著である。また、135 次調査に関連して、上述埋没谷の西岸奥部では、谷部に大量の土器が散布しているほか、木器類も多数の出土をみている。

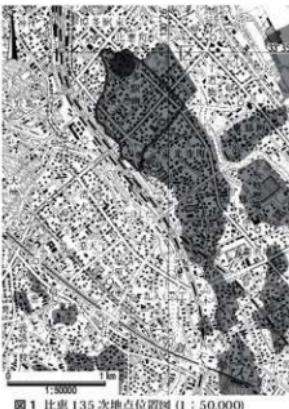


図 1 比恵 135 次地点位置図 (1 : 50,000)



圖2 比惠135次調查區位置圖 (1:2,000)
臺灣耕作產生時代二三

2 比恵 135 次調査の記録

(1) 発掘調査

1) 調査の経過

調査対象は、用地の北2/3を占める予定建物の範囲とし、表土部を機力により鏟取り、以下を人力で掘り下げ、調査を行った。用地内に休憩場所、駐車場を確保する必要から、廃土を調査範囲内で処理することとし、まず西部部分を1区として掘削、調査を行い、東側を廃土置き場とした。以下北東及び東辺部を2区、残りの南辺部を3区とし、残余部分を廃土置き場としてベルトコンベアーにより廃土を排出しながら調査を進めた(図5)。

調査区内では、かなりの部分が建物解体時に掘削を受けていたことから、調査区の壁面養生のため掘削深度の大きい部分では調査区壁に勾配をもたせた。また、調査区内に建物基礎杭が残り、鉄筋等の処理をしながらの調査となつた。

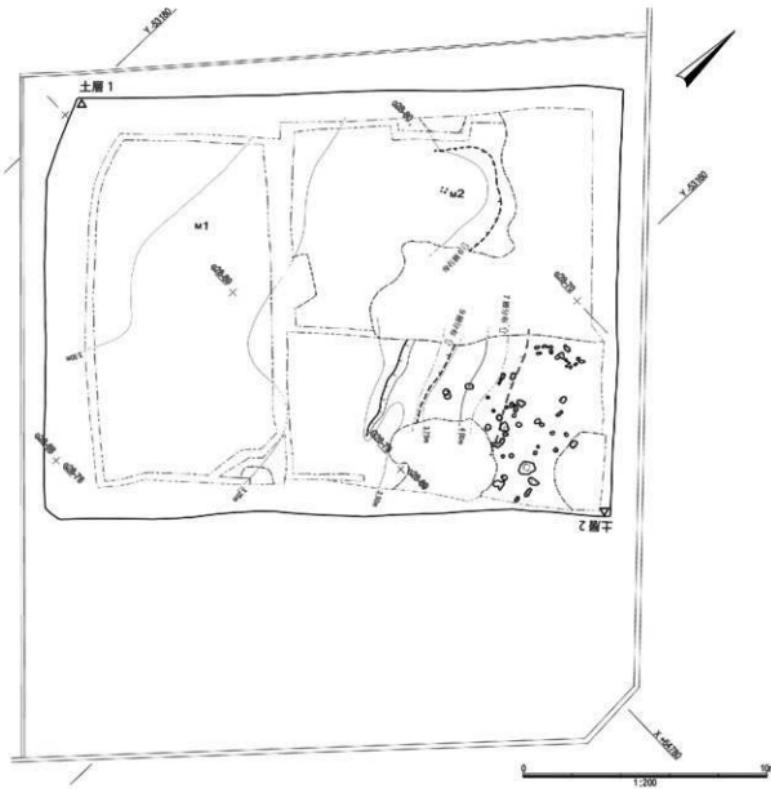


図3 比恵 135 次調査区全体図 (1:200)

1区の調査（図3・5・6・7） 1区は調査地の西1/3の範囲で、埋没谷（谷とした）の谷底部にあたる。2014年10月14日着手。

調査では、確認調査の成果をもとに、表土層を機力で除去した。135次地点は80次調査区から続く谷部に当たり、谷底の遺物包含層は予測されていたが、その上位の谷埋積土中には水田の可能性が報告されていた。このため、表土鋤取りを段階的に行い、各段で遺物および水田の確認を行いながら掘り下げを進めた。結果、谷底の包含層に至るまで、水田の検出をみないまま、谷底の下層部から遺物包含層を検出し、人力での調査に切り換えた。

調査面は、1区西部では現地表から深さ2m程となり、涌水がみられた。そのため、調査区周囲に排水溝を掘削、水中ポンプによる排水を行なながらの調査となった。ところが終日排水できる条件が整わず、調査時間中ののみ、溜まり水を排水しながらの作業となった。このため、調査面が水を含んだ状態のままで作業となり、木質遺物が出土したこともある、ベルトコンベアーの取りまわしや作業員の移動等の障害となっただけでなく、遺物の出土位置、特に出土層位を十分に確認できないまま発掘をせざるを得なかった。結果として、後述するように遺物出土層について幅をもった記述をせざるを得ないこととなった。1区の調査は11月31日終了。

2区の調査（図3・5・8・10・11） 2区は調査地の北辺部及び東辺部を占めるL字形の区画となった。2区の西半部は1区に続き谷底にあたるが、東に向かって高度を上げ、台地東岸の高まりとなってゆくものと思われる。11月2日表土鋤取りを行い、谷埋積土の状況は1区で確認済であったの



図5 比恵 135次調査区(2区調査 南東から)

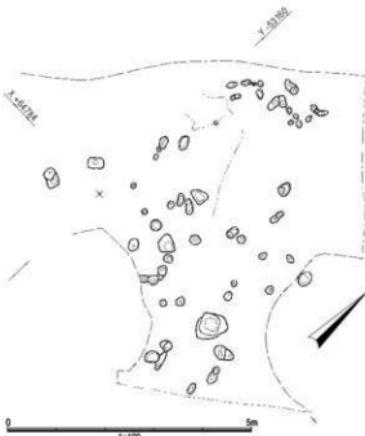


図4 台地部構造 (1:100)

で、下底部の包含層まで機力により鋤取った。東半部は台地部の存在が予想されていたが、既存建物の建築時と基礎除却時の掘削が重なって広い範囲に擾乱が及んでおり、確認することができなかった。しかし、この擾乱を廃土置き場として利用できたことから、調査区東辺に沿って2区を拡張したところ、台地部の遺存を確認することができた（図5）。

2区では、包含層の他に、やはり谷底部で杭を打設した遺構を検出した（遺構2）。2区の調査は、11月13日終了した。



図6 比恵135次調査区全景(南東から)



図7 1区全景(南東から)



図8 2区全景(南東から)

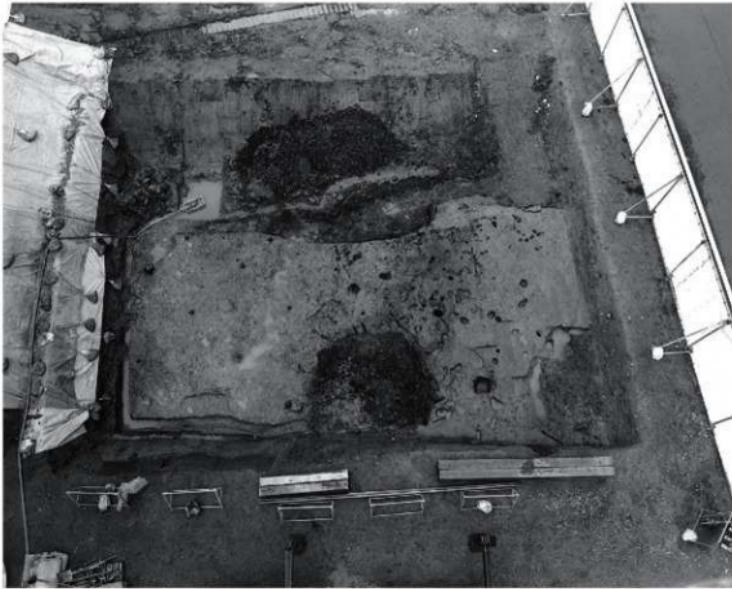
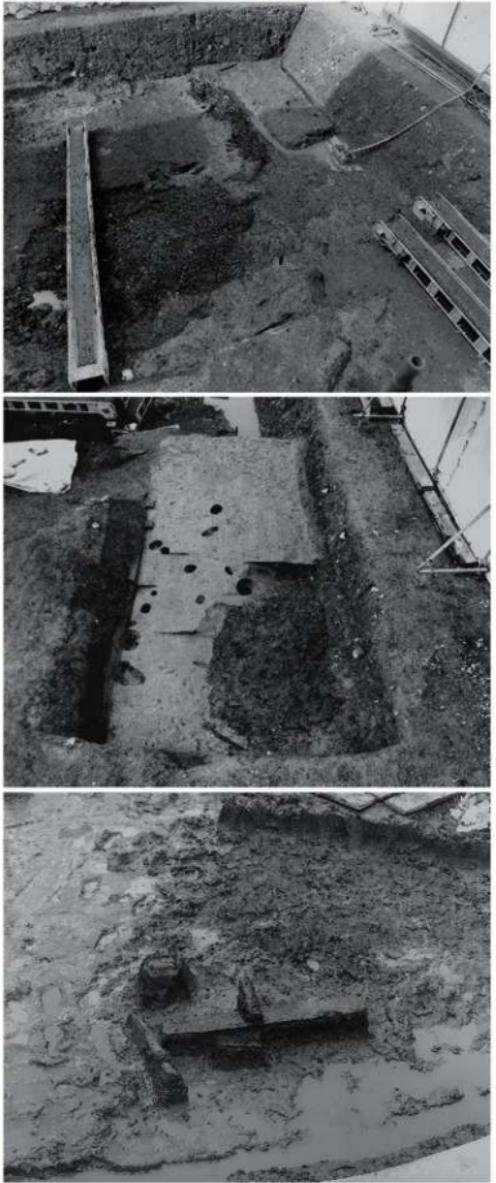


図9 3区全景(南東から)



3区の調査 (図3・5・9) 対象

地南辺部の残地について、2区埋め戻しに合わせて土砂を反転、表土鋤取りを行い、3区とした。台地部の遺存については2区の拡張区で確認しており、それから谷底へ下る斜面部の調査となった。調査は谷底部の包含層と台地部の遺構について行った。谷理積層中では、足跡様の落ち込みを検出したことからその確認を行った。3区の調査、現場作業を完了したのは11月28日である。

3調査区を併せた比恵135次調査区全体の面積は、404m²、出土遺物は、土器・石器類がコンテナ8箱、木製品等が4箱ほどの分量となった。小量が上層出土である以外は、全て谷底部の包含層(9層とした)出土である。

2) 記録の方法

調査にあたり、近隣の既知点に依り、国土座標系に沿った調査区画を設定し、平面図での記録、遺物出土位置の記録に用いた。各区画について、座標系の1km区画を10等分成して100m区を設定、更にそれを10等分した10m区とし、更に5等分した2m区画とした。各区画は座標南東隅を原点として、Y軸(西)方向の各区画の順番号を上の桁、X軸(北)方向の順番号を下の桁に組み合わせて2桁で表記した。今回調査では、100m区が1km区内の西へ2列目の北へ8段目にあることから、調査区画を示す「G」に続けて「28-」以下10m区(2桁)・2m区(2桁)を続けて表記し、出土区画を記録した(例 G28-7945)。

△図10 2区北東捲乱部(南から)

△図11 2区南半部(南東から)

△図12 1区谷1(G8845)木製品出土状況(西から)



図13 1区西壁上層(北から)



図14 1区北壁西半部上層(南東から)



図15 2区北壁東半部上層(南東から)



図16 2区南壁上層(北西から)



図17 3区南壁上層(北西から)

包含層の遺物は、個体として取り上げたほかは、可能な限り上記 2 m 区画を単位として取り上げた。現場での取り上げに際して、取り上げた遺物の単位に対して遺物番号を付し、台帳に登録した。整理に際しては、その番号を登録番号として利用し、さらに個体として抽出したもの、接合のため抽出したものについては、新規に探査し、これを登録遺物番号に加えた。今回調査では、現場で取り上げた遺物 118 件、整理の過程で追加登録したものを加えると 496 件となる。

遺構は、内容に関わらず連番で登録した。小穴は遺物を出土したもののみを登録した。今回調査では、遺構は遺存不良で、人為物ではない谷も加えて 3 件のみを登録した。

(2) 比恵 135 次調査出土の遺構と遺物

1) 出土遺構と遺物の概要

調査区は、現在の街区に沿った長方形の範囲となっているため、位置関係を示す記述は、北西側の長辺を北壁として以下右回りに東南西壁とする。調査区は東西壁間が 23 m、南北壁間が 17 m の規模である。それの中東部 1/3 弱の部分に台地の一部が遺存し、西側 2/3 は、埋没谷（谷 1）となる。遺構は、谷底で四辺形を区切るように打設された杭、台地部で小穴を確認した。遺物は谷底に分布する包含層出土のものが殆どで、弥生時代前期から中期前半の土器のほか木器、石器が出土した。それ以上の層からの出土はごくわずかで、弥生土器以外の土器類は、極少数である。

2) 谷 1 出土の遺構と遺物

谷 1 (図 3)

谷 1 とするのは、比恵遺跡群の立地する中位段丘を北西方向から開析する幅広い埋没谷であり、135 次調査区では、その東岸部分を確認したことになる。比恵 135 次調査区では、東 1/3 以外は、谷 1 の範囲となる。調査区南北壁が谷 1 の東岸部を横断する位置にある。調査区西側が谷中央、東側が谷東岸台地となる。西調査区の南東側に台地部が残り、北東側は攪乱が大きく広がり、確認できない。周辺の調査から推定する台地肩部の位置は、調査区を斜めに通るものとされる。調査区及び谷 1 の土層を以下に示す。

谷 1 土層 (調査区南北壁土層 図 13 ~ 18・19) 現況地盤は、立地の項で触れたように一帯に施工された区画整理による盛土によっている。調査地点では、0.5 m の厚さがある。ここでは、既存建物建築時の掘削、除却時の掘削も合わせて現代の人が層として 0 層とする。

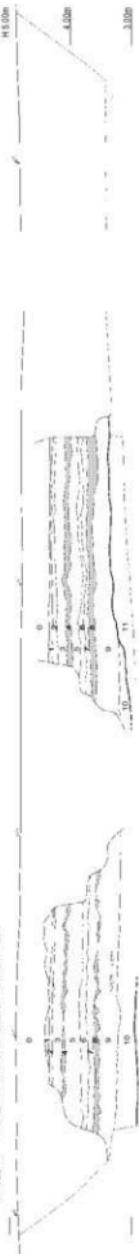
水田耕作土 (1 層) と床土層 (2 層) は、区画整理時に存在したのものであり、その開田時期は不明。調査では、壁面から近世以降とみられる磁器碗細片が出土した。南壁では、2 層下面是台地部の鳥栖ローム層直上にあってほぼ水平である。また、谷部の 3 層においても同様であり、開田時に一定の地下げが行われたものかもしれない。

1・2 層は何らかの人為的影響を受けた部分であるが、3 層以下は自然堆積層と思われる。谷部の堆積 (谷の埋積土層) は、調査区西辺の最深部で 3 層上面から 1.4 m の深さにある。谷堆積層は、底面上の 10 層まで 8 分区したが、大きくは 3 層以下 5 層までの上部と、6 層以下 10 層までの下部とに区分できる。部分的な分布を示す層もある。

3 層・5 層は粗砂を顯著に含む灰黄褐色のシルト層で、間に黒褐色の粘土混じり砂層 (4 層) を挟んでいる。6 層以下は黒褐色粘土層で、7 層と 8 層の間に黄灰色砂層を挟む。7 層は粗砂～細礫を含む。谷底を部分的に覆う。9 層も砂が混じり、植物断片を含む。中位にレンズ状の粗砂層が散在する。10 層では強雜物は少なく、底面は波状を呈す。

遺物としては、表土鏽取り時に 1 層で検出した陶磁器以外は、7 層まで遺物を確認できなかった。近

土層1 比惠135次調査区北壁土層



0層 岩上(地盤取扱上、建物基盤取扱方に作る範囲はほかの複数点)。
1層 粘土質シルト 黄灰黄色 (2YR 5/2), 谷 (M1) 所設の水田耕作土か。
2層 粗砂と細砂に含む粘土質シルト にぶい 黄褐色 (10YR 4/3), 下層との境界不明瞭。水
田耕作土類か。
3層 亂れ帶 由縫隙と細砂を含む谷 (M1) の堆積土に形成される。
4層 粘土質シルト 黄褐色 (10YR 3/2), 下層との境界不明瞭。断続的に分布し、西
斜面では明瞭に分布するものか。正側面東下部では、耕作部が分離せず、
粗粒・細粒には明瞭に分離するようにも見える。3-5層より
やや薄い。
5層 性状は、3層に同じ。
6層 黏土 黑色 (7.5YR 2/1), 压縮性高い感じ、下層との境界不明瞭。

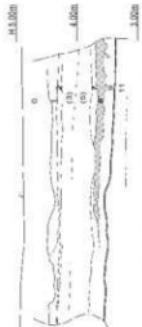
土層2 比惠135次調査区南壁土層



0層 北壁に同じ。
1層 水田耕作土。性状は北壁に同じ。
2層 土性は北壁に同じ。東半の谷地部分はほぼ耕作下に地盤(鳥新ローム層)がかかる。
谷地部分では、土性に至るまで浸水に因して他の土層より要く隔まる形があり、能
登の工事の段階などと考えられる。
3層 南壁で採集した部分は、下層部分ならぬている。その境界は不明瞭で、薄移りする。
上部は、北壁の5層に当たる相当するもののみられ、南壁よりの明瞭な黒褐色土か。下
層は、北壁の5層に当たる相当するもののみられ、南壁よりの明瞭な黒褐色土か。下
層の過剰浸水。

図18 比惠135次調査区土層図 (1 : 80)

7層 粗砂・砂質混じり粘土(泥質)で、木質樹皮を含む。黒褐色 (7.5YR 3/1)。下層と
の境界不明瞭。波状面す。極小量の樹皮を出すが、落葉の断片が散在する。
8層 黄灰黄色 (2YR 4/1) 粗砂・にぶい 黄褐色 (10YR 2/3) 砂質を含む。樹皮との境界
不明瞭。
9層 砂混じり粘土質シルト 黑褐色 (10YR 3/1)。風化強度、風化含水率、土壌等は定位で
を定めた。西半部では、間にレンズ状の粗砂層を挟む。風化、過剰含水率。
10層 シルト質土 黑色 (10YR 2/1)。起色4/4。木質を含む。風化含水率。
11層 シルト質土 黑褐色 (10YR 4/1)。八女粘土か。



7層 砂混じりの黒褐色粘土質土。台地側の8層を離す位置では粗砂混じりの黒褐色土質
上となる。堅密な小量の過剰浸水。
8層 砂質。性状は北壁に同じ。堅密から極度の過剰浸水。
9層 直接繋ぎ。台地側では表面が浸水状を呈す。
11層 土山。台地側では鳥新ローム層が現り、西半の谷部では八女粘土層が現れている。



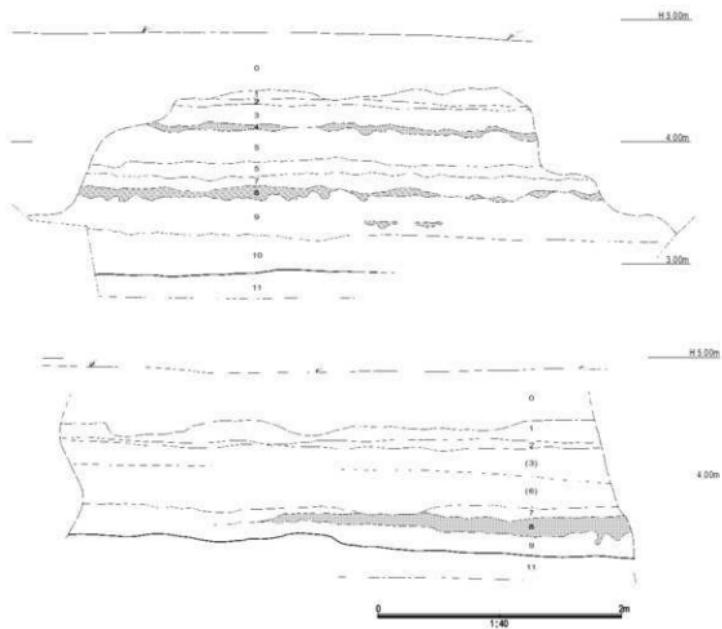


図19 比恵135次調査区上刷図(2)(1:40)

接する80次地点でもやはり谷底近くまでを機力により鋤取ったこともあって、この間の時期を示す資料は不明瞭である。本調査区出土遺物は、7層から小量の土器片が出土したほかは、殆ど全て9・10層からの出土である。この位置から弥生土器のほか木器類、石器類の出土があった。調査の項に述べたように、涌水のため出土層位の確認が難しく、出土層位の区分をできない今まで取り上げた。調査時の状況では、表土剥ぎでは9層下部で遺物の散布を確認、調査開始面としたしたこと、木器は谷底面よりやや浮いた位置から出土したものがあることなどから、9層下部から10層上部の幅に遺物が多く含まれていたものであろう。

谷1の現況と旧状地形 谷1の谷底面には褐色灰色の八女粘土層が現れており、調査区西辺部北壁側で標高2.9m、南壁側では3.2m近くとなる。谷底面は調査区西辺部から次第に高度を上げ、調査区中央部を過ぎた辺りで、3.5m程となり、この位置で谷底面の立ち上がりが観察される。9層の広がりはこの位置までとなる。ここから等高線がやや密となり、標高4mを超えた辺りが、現況の台地肩部となる(図3太破線で示す)。実際は、ここが削平の肩線であり、更に東へ高度を増した位置に本来の台地肩部が想定される。現状で谷底と台地部の比高最大1.2m程となり、岸部について、削平された上部は不明だが、確認できる範囲ではごく緩く立ち上がる断面形を示している。南北壁間では、北壁側が0.3mほど低い。隣接する80次調査区でも同様の勾配があり、谷1の開口部への勾配を示し

ているものと考えられる。

谷1は、これまでの調査成果から比惠24次地点付近に谷頭が位置し、開口部は135次地点のやや北方で、29次調査により確認した河川に合流するものと想定できる。また西岸は、24次調査区から115次調査区まで北西方向に並ぶ一連の調査区で確認されている。谷の幅は、135次調査区で検出した東岸と115次調査区で検出した西岸との間で、約70mの幅を持っていたものと復原できる。谷底部は隣接する80次地点でも調査されており、135次地点北壁のほぼ延長上にある調査区北壁の土層からその底面高度が変わらず西岸方向へ続いていることが分かる。更に西岸では、135次地点で確認したように緩く立ち上がる岸部を25次地点ほかで確認されている。以上から、谷1は、広く平らな谷底から、両岸の低い台地部に緩やかに立ち上がる様な景観をもった地形であったと復原できる。その西岸にある調査区の、特に谷奥部では多量の遺物が岸沿いに散布するだけでなく、谷部(水辺)に結びついた遺構が残されている。

谷1包含層出土遺物(図20～28) 土器類は小量の石器類を合わせてコンテナ8箱ほどの分量が出土した。ほかに木器類が20点余り出土した。土器は1点を除いて全て弥生土器であり、底部を除いてほぼ全て細片化した資料である。器形は壺と甕が殆どを占め、浅鉢、蓋、鉢等がごくわずか含まれていた。石器類は、利器は小数で器具が多いが、大多数は石器製作残滓である。木器類は、農具のほかに板材等が出土している。杭は、遺構2の項で述べるように2箇所で、小数検出したのみである。

以下、遺物個別の詳細は後掲表(表1～7)で記述し、概要をここに示す。

土器については、細片資料が大半であることから、資料数の多い壺と甕について、形状のわかる口縁部及び底部および、文様を残す体部破片を抽出分類してみた。

図20に7層出土ほかの土器を示す。7層から出土下土器は全て弥生土器である。弥生時代前期の壺、甕、中期の甕がある。209は、9層として取り上げた白磁碗口縁部であるが、攢部の縁に当たり、ほかに新しい遺物が皆無なことから出土層位に疑問が残る。表面に褐鉄鉱が付着しており、上位の砂層(4層)等からの出土か。

21図に壺資料を口縁部、文様のある胴部、底部の順で示すほかに、浅鉢を示す。浅鉢(222)は、口縁部付近の細片、黒色、笠磨き調整、口縁に斜交する赤色顔料塗彩の平行条線が残る。壺口縁部は3分類した。上段は、小形、外面が低い段を持って肥厚、外反する。中段は、内面が肥厚し、口縁端面を形成する。端部上下縁に刻み目を持つものがある。下段は口縁端に粘土板を貼り付け、鋤先状に成形するもの。中段に文様のある胴部資料を示す。212が赤色顔料による羽状文を塗彩するほかは、切削による施文を行う。上3段は羽状文、或いはそれと圈線とを組み合わせるもの、下2段は、圈線及び、弧線を刻むもの(221)である。刻線は貝殻腹縁を用いるものと笠状の工具を用いるものがある。後者には、極鋭く薄い刃先を思わせる刻線のものがある。

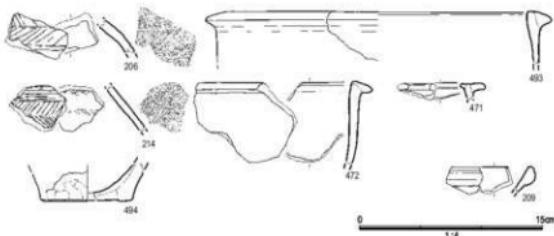


図20 谷1-7層出土遺物(1:4)

図22・23に甕を示す。図22・23上段に口縁部、図23下段に底部を示す。

図22上段は、外反する口縁部(A類)で、前期のものと考えられる。その上段は口縁端を丸く収めるもの(A-1類)。

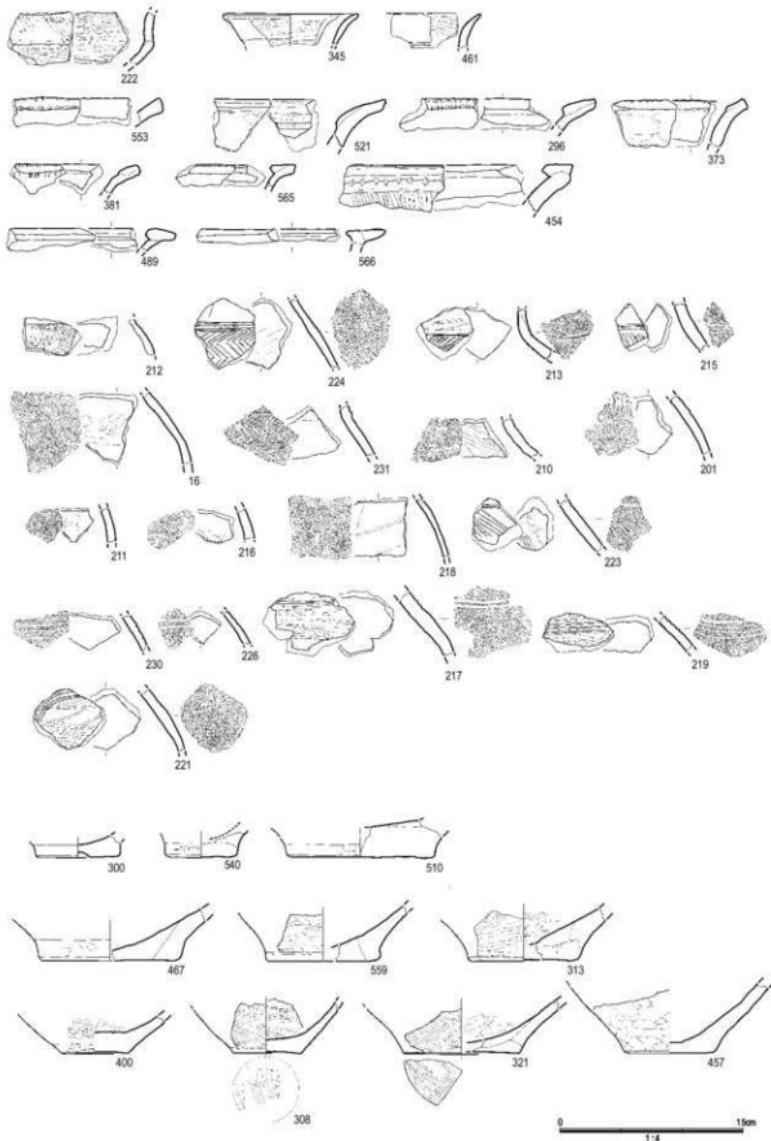


图21 谷1-9 刮削器及破碎器实物图(1)(1:4)

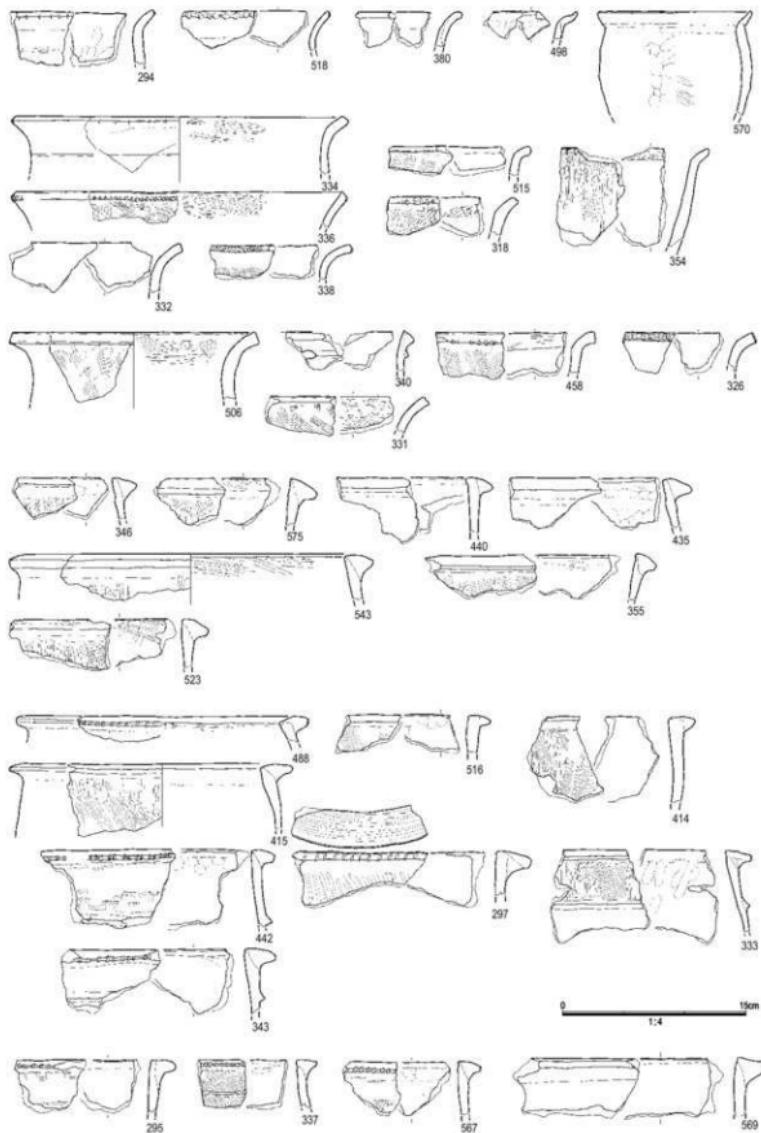


圖22 谷1-9層出土陶器實測圖(2) (1:4)

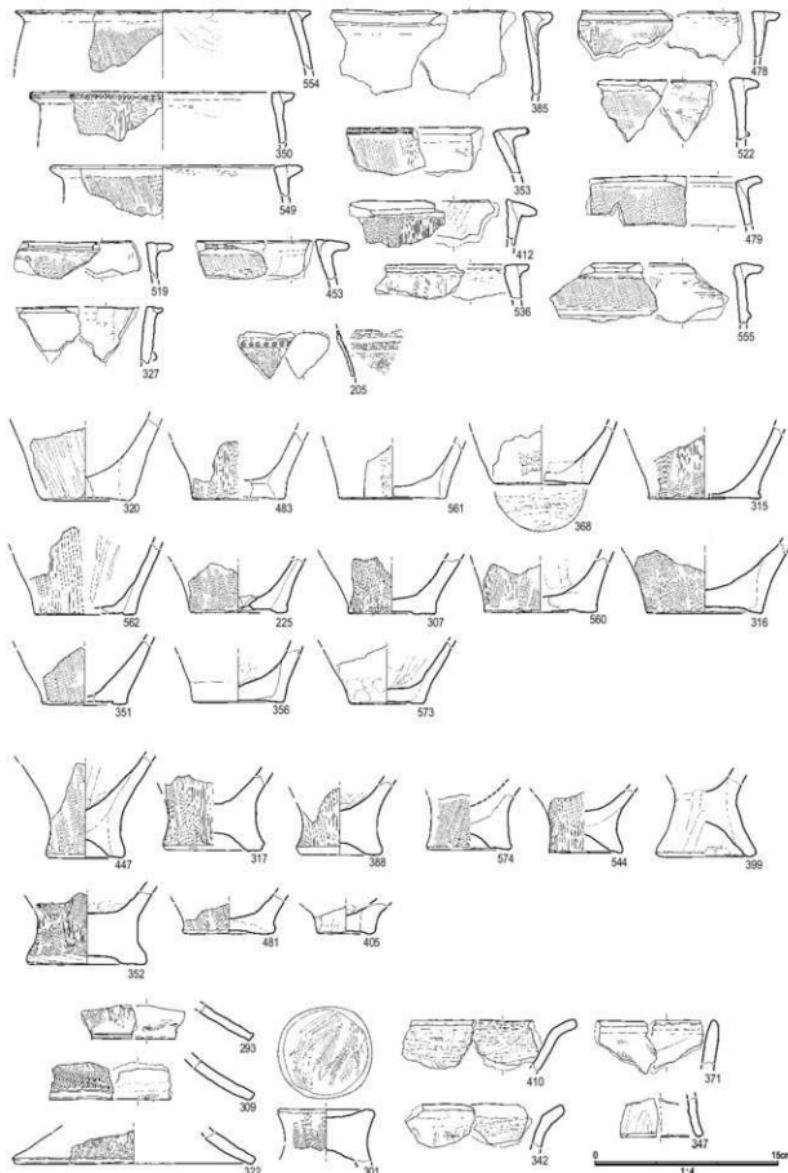


图23 谷1-9层出土弦纹土器实测图(3)(1:4)

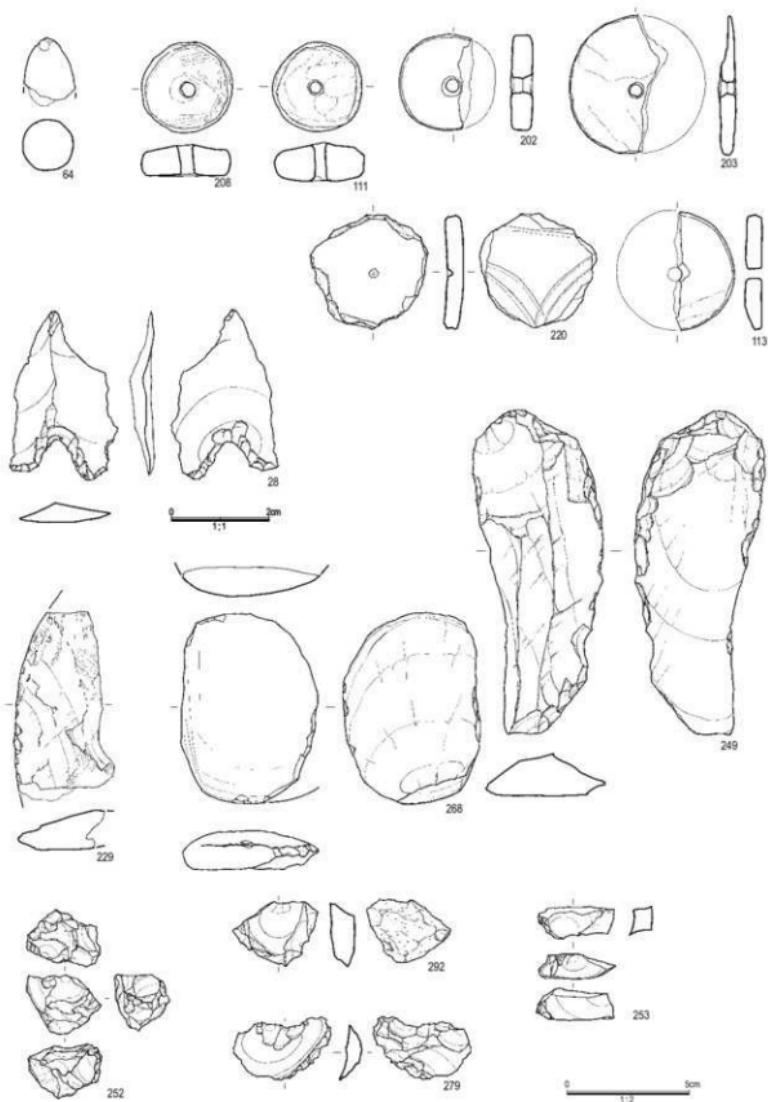


圖24 谷1-9層出土石器尖測圖(1) (1:1.1:2)

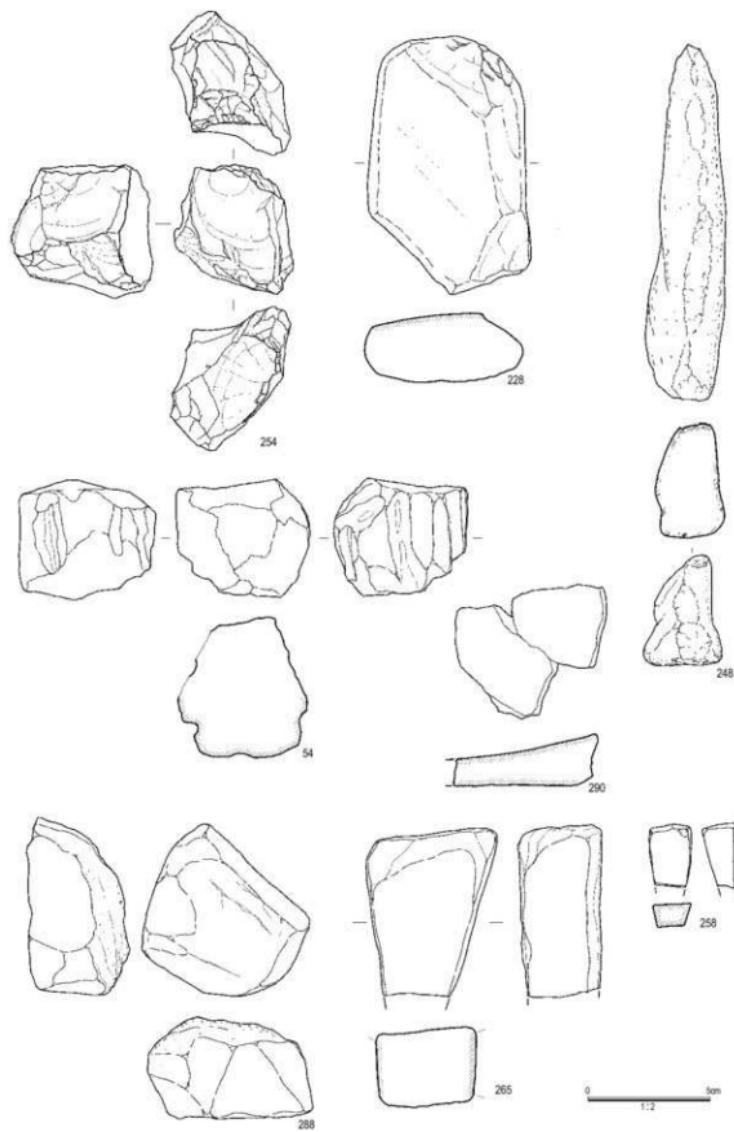


圖25 谷1-9解出上石器実測図(2) (1:2)

中段は、外面側を丸く治め、内面側には稜が残るもの(A-2類)。下段は、内外面の調整が、口縁端を挟み込むようになって、口縁に端面を形成するもの(A-3類)と区分した。それぞれ外面側に刻み目を施すものがある。図22下段は、口縁部外面に粘土を付け足し、鍔状の口縁に成形するもの(B類)である。中期前葉から中葉か。これらは口縁部断面が三角形で、上端面が弧状を呈すもの(B-1)、端部上下の厚さが小さくなり、折り返した様な形となり、上端面がやや平坦になり、その内面と成す角度が直角に近くなるもの(B-2)、その傾向がより強くなり、上端面の平坦化が進むもの(B-3)がある。

23図上段の最後に示すものは、腰帯部から剥落した外面器表部か。2条の圓線間に竹管押捺文が並ぶ。23図下段は、底部資料である。そのうち、上段は平底で、前期に属するものか。下段は厚く、突出した底部で、中期前葉か。前者の外底面は中央部が周縁部より一段窪む例があり、底面整形時の充填の痕跡か。405は壺底部の可能性がある。

図23下段は上記以外の器形資料である。293・309・322・301は蓋である。301は壺底部と区別が難しいが、図上上面の調整が丁寧である。410・342・371は鉢か。347は、筒状の器形の裾部と見えるが、具体的な器形を復原できない。

図24・25に土製品・石器類を示す。64は土製投弾、208・111は土製紡錘車。220は、土器片を利用した紡錘車未成品である。前期壺胴部破片を利用し、中央の孔が未貫通。203・113は石製紡錘車。中段に利器を示す。28は剥片鐵、229は石斧体部細片でともに縄文時代資料である。268は、剥片となっているが、太型蛤歯石斧の刃部が衝撃で剥落したものである。249は、剥片利用の石器で縁部両面に剥離痕が連続する。

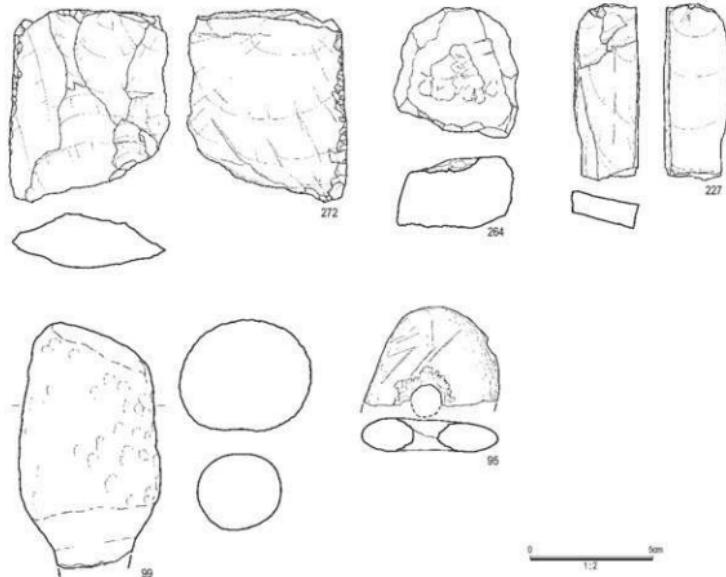


図26 谷1-9 剥出上石器実測図(3) (1:2)

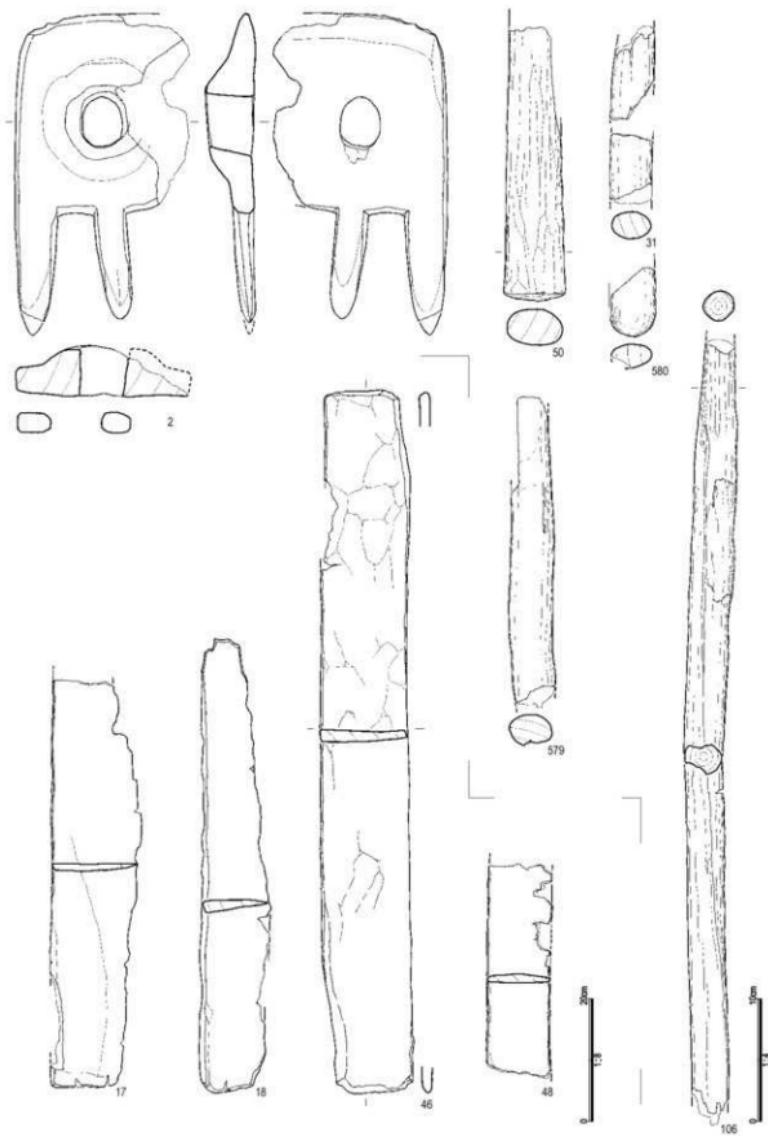


图27 谷1-9号出土木器实测图 (1:4, 1:8)

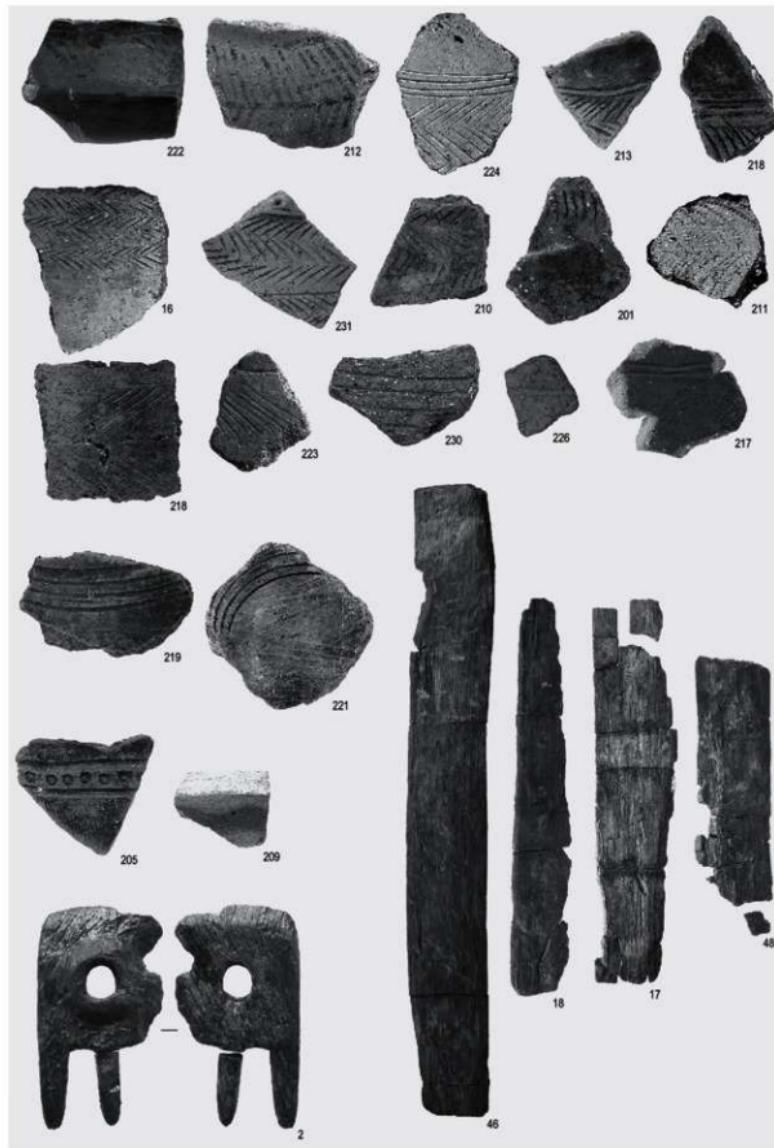


圖28 谷1出土遺物

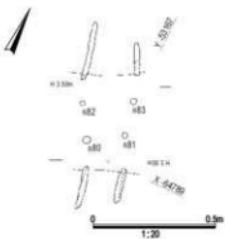


図29 遺構2(1:20)

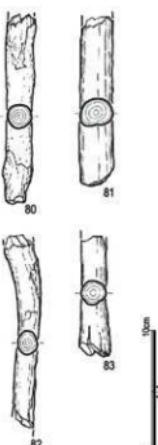


図30 遺構2出土杭(1:4)

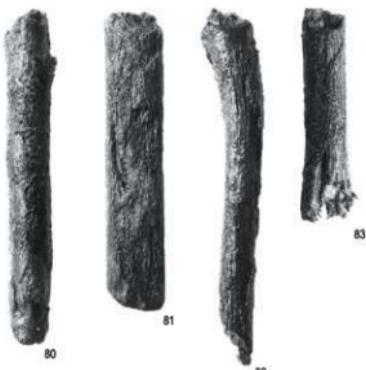


図31 遺構2出土杭

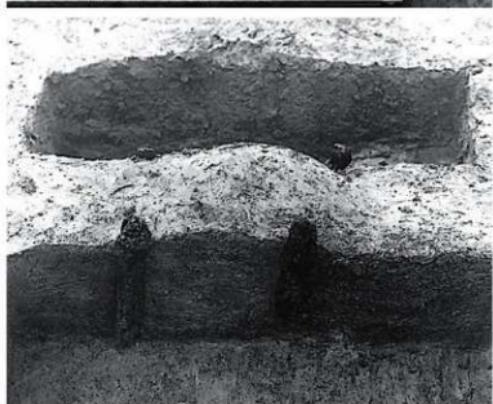
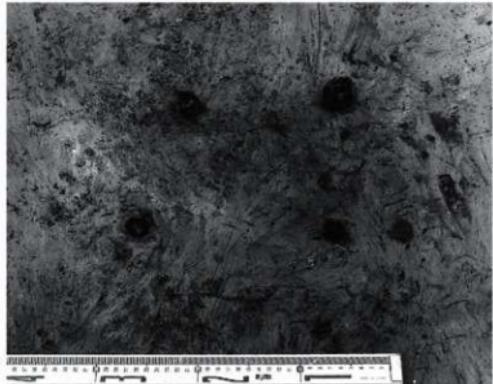
252・292・253・25 図 254 は石核とする。小形で、剥離作業面が片面で構成される点、石核としては疑問。279 は両面に加工が行われる、未完成品か。228 は石斧頭部破片利用の砥石。54 は、各面に溝状の凹面が残り、溝底石といったものか、固結の弱い砂岩利用。290 は石皿とする断片資料。248 は稜部に打痕状痕が残る敲石か。288 は多面体状の砥面をもつ砥石。265・258 は柱状の砥石、砥面は撓曲して置き砥石か。図 26 の 272 は剥片の縁部に剥離痕が連続する石器。剥離痕は使用によるものか、他遺跡の調査では次第に打ち潰し状に進行してゆく資料がある。264 は凹石。227 は、頁岩製剥片、側面は節理に沿い剥離、直方体を呈す。99 は穿孔具、全体を敲打により整形、先端部は磨滅して断面楕円形状。95 は、中央に敲打による穿孔を行っている。図 27 に木器を示す。2 は、三叉鍬、片側を欠く。50・31・580・579 は柄とする。50・580 は柄尻部。50 は全体を長軸方向の細かな切削面で整形している。31・580 は同一個体か。17・18・46・48 は板状の資料、46 は表面を削って調整し、側面と端面を面取りする。構造部材の可能性があるが、固定や組み合わせのための加工は残されていない。他はみかん割り材。106 は、細かな切削面で尖頭部を造り出す。

遺構2(図29)

谷1底では、包含層以外に遺構1基を検出調査した。遺構2は、2区調査時 28-7845 区の谷底面で 9 層掘り下げ時に谷底面で検出した。四辺形に区画するように杭を配するだけの遺構である。杭の間隔は 20cm 余から 15cm 程度であり、平面台形状を呈す。杭は細く短い。最も長い杭 82 は、出土時の長さ 25cm ほど(取上時先端部破損)、短い杭 83 は長さ 10cm 足らずで、地山八女粘土層に打ち込まれていた。径は杭 81 で 2.6cm、杭 82 は 1.8cm ほどのものである。何れも、樹枝や低木の樹幹部を利用するが、杭として先端部に尖端を造り出すことをせず、切断時の状態のまま打ち込んだものと見え、尖端の亀裂に地山粘土が挟まった状態で出土した。杭の頭部は 9 層掘り下げ中には確認できなかった。周囲に植物遺物が遺存することからすると、9 層より上位から打ち込まれたものではなかったと思われる。杭のほかにその性格を示すような出土遺物、出土状況は確認することができなかった。

打設された杭は、これのほかに 5m 程離れた南でやはり谷底の八女粘土層に打ち込まれた 1 本を検出したのみである。

遺構2 出土遺物(図 30・31) 80～83 は何れも杭である。丸木材で、樹皮の遺存するものとしないものとがある。切断のための切削痕も不明瞭。



3) 台地部の遺構と遺物

台地部遺構を図4に示す。台地部は調査区南東隅に7m四方が残るのみである。台地部は北壁に向かって、方位でいうと北西方向へ延びるようであるが、実際は攪乱によって失われ、調査区壁面でも確認できない。台地部の現況は、先に触れたように削平の結果である。それに依るものか、遺構の分布は極疎らである。調査時には、弥生土器の出土により1基を登録したが、柱痕跡などは確認できず、柱穴といったものか否かはわからない。小穴とするものの多くは、不整であるか、先細りしたり、斜めに入ったりとおそらく樹根等の痕跡と思われるものである。図4中、二点鎖線より谷側の緩斜面にはそういった痕跡が多数分布する。

引用参考文献

- 福岡市埋蔵文化財調査報告書
吉留英敏 編 1991
『比恵遺跡群』10 255集
(比恵 24次・25次調査)
- 菅波正人ほか 1992
『比恵遺跡群』11 289集
(比恵 32次調査)
- 本田浩二郎 編 2004
『比恵』36 822集
(比恵 80次調査)
- 榎本義嗣 編 2011
『比恵』61 1131集
(比恵 117次調査)

△図32 遺構2(北から)

△図33 遺構2断面(南から)

△図34 遺構2断面(北から)

3まとめ

比恵135次調査では、比恵遺跡群の立地する中位段丘の北端近く、北に開口する埋没谷部の東岸部の調査を行った。調査では、調査区の南東部を通り、谷の東岸が北西方向に向かうことを確認した。

調査区南東部に残る台地部では、遺構の分布は疎らである。谷部には底面近くの堆積層中に弥生時代前期から中期前葉にかけての遺物の散布があった。土器に混じて石器類、木器が出土した。同様の状況は、西接する80次調査にみることができ、南東の117次点でも包含層の形成が認められる。遺構遺物の集中する埋没谷西岸から距離を置いた区域の状況を示すものであろう。今回調査も合わせて、この埋没谷の状況を知ることができる。谷は、135次地点において対岸との距離70m程の幅があり、奥行きはそこから80m南東の24次地点あたり、谷開口部は29次地点で確認した台地北縁の延長線との交点で、北西へ30m程の位置と復原できよう。谷底は広く、平坦で、開口部に向かう緩い勾配がある。谷の深さは135次地点で1.2m、南東の117次地点では1.5m程で、岸は緩やかに立ち上がる。

その底面付近に包含層が形成される。弥生時代前期から中期初頭の遺物を含み、木器も遺存するが、密度は比較的低い。それ以降の谷の埋没過程を示す資料としては、117次調査では、下部包含層から弥生時代中期後半の遺物が出土したとされる。135次調査では白磁碗の存在が問題となるが、出土位置について、疑問がもたれる。南の25次調査では、旧地表である水田開田時の整地層とされる層から奈良・平安時代の土器の出土が、その下位層から隣接する32次地点とあわせて弥生時代後期前半の土器が小量出土している。

これらの遺物が谷埋没の過程を示すものとして、その量は小量であり、135次地点も含め、一帯は人間活動の場からは離れた位置にあったものかと思われる。谷部の水田としての利用は調査時の所見からする限り認ることはできず、むしろ一帯の大部分が沖積低地下に没して後、開田事業が行われたものなのかもしれない。

報告遺物観察表について（表1～7）

本表は、今回報告遺物の個々について記述する。

遺物は、報告掲載図毎に、遺物番号順に掲載した。項目は以下の通りである。

- 1) 図 報告図番号。
- 2) 遺物番号 登録遺物番号とする。
- 3) 遺物記述 表の分量が限定されたので、記述項目を別項目とせず、以下の項目について、順に記述した。項目は、「<>」で示した。
 - a. 分類(種別 器種 細分の順に表記)
 - b. 時期
 - c. 出土位置 調査区、遺構、出土層、出土区画(先述した調査区画)
 - d. 材質(胎土・焼成) 胎土は断面観察を行った。焼成については遺存環境に依ることが大きいため、特別な例以外は記述していない。色調は必要に応じて断面も記述した。石器類、木器類等は素材についても記述した。
 - e. 成形・調整 製作技術上の観察を記した。
 - f. 特記 項目立てた以外の事項について記した。
 - g. 遺存状況 遺存する分量、部位のほか、器表の状態について記した。統計で、計測を行ったものについては、その計測部位と精度、計測値を記した。

別に、遺物番号順の図索引を付した(表8)。

| 固 | 通物記述 |
|-----|---|
| 206 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 3区 MI-7崩-G7913 <材質(断土・焼成)>断土: 磨擦が粗砂を含む。器表: 洋黄色(10YR 8/3)。<遺存状況>肩部細片、器表荒れて縁部崩落。 |
| 209 | 白磁 (古代) 2区 MI-7崩-G7922 <材質(断土・焼成)>断土: 磨かに粒状、孔隙を生じる。器表: 有光して半透明。 |
| 214 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 2区 -D7834 <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性あり。粗砂を含む(~1mm、花崗岩起源)。器表: 外面暗紅色(2.5Y 5/1)、内面~芯部黑色。 |
| 471 | 生土器 傷 (秀生/崩中崩前) 3区 MI-7崩-G7915 <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性顯著。細砂を顯著に含み、粗砂も混じる。器表: 面外にぼくげ(7.5YR 6/4)、内面にぼくげ色(10YR 6/3)。<成形・調整>外面部: 扇で調整。頭部に圓窓、その下位に周回方向の羽状(大輪の輪状工具による)。<遺存状況>肩部細片 |
| 472 | 生土器 傷 (秀生/崩中崩前) 3区 MI-7崩-G7913 <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性顯著。細砂を顯著に含み、粗砂も混じる。器表: 面外がぼくげ色(7.5YR 6/4)、内面にぼくげ色(10YR 6/3)。<成形・調整>外面部: 大部分が器表剥落。内面: 扇で調整。口縁部: 外面部の下面に周回方向の隙の調査。器表は器表荒れて詳細不明。 |
| 493 | 生土器 傷 (秀生/崩中崩前) 3区 MI-7崩-G7913 <材質(断土・焼成)>断土: 精緻、粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源)。断面: 脊者に磨削するが、凹状現状。<成形・調整>外面部: 大部分が器表剥落。内面: 扇で調整。口縁部: 外面部の下面に周回方向の隙の調査。 |
| 494 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 3区 MI-7崩-G7913 <材質(断土・焼成)>断土: やや粒状性あり。粗砂を顯著に含む(径2mmほど、花崗岩起源)。強引なガラス状気泡を含む(これはガラスの可能性あり)。<成形・調整>底部は、内外部から粘土を詰めて成形したものか、内底面がやや歪む。外表面: 底部付近に指押さえ痕一撫で調整。<遺存状況>底部1/4周の破片、器表荒れ、底盤付(復原)7.6cm |
| 16 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G6922 <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性あり。粗砂を含み、緻密。器表: 断土状、器表: 外面に褐色の泥わらりあり、上抜けを行なうものか(明褐色7.5YR 5/6)。<成形・調整>外面部: 周回方向の隙の調査、隙縫を擴張するごとに縫羽状。内面: 中央部に指押さえ痕一撫で調整。 |
| 201 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G7833 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起源)。<成形・調整>外面部: 扇で磨削。隙状工具による羽状現象。内面: 扇で調整、凹凸がある。<遺存状況>口縁部細片 |
| 210 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G7843 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂を含む(径2mm)。断面: 口縫状、器表: 短灰黒色(2.5Y 5/2)、内面: 黒色。<成形・調整>外面部: 繻描するごとに羽状現象。2段以上。内面: 扇で調整、路面に不規則な凹凸顕著。隙縫を擴張(右下)。 |
| 211 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G7853 <材質(断土・焼成)>断土: やや粒状性。粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 四枚状、器表: 外面灰白色(2.5Y 7/1)、内面斑状に黄褐色(2.5Y 6/1)。<成形・調整>羽状現象(且既腹裂による)。<遺存状況>肩部細片、器表遺存表。 |
| 212 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G7854 <材質(断土・焼成)>断土: やや粒状性。粗砂を僅かに含む。断面: 四枚状。<成形・調整>外面部: 周回方向の隙の擴張と右周回方向の有羽状現象(器表は黒色、赤色鮮彩顔料による)。内面: 制削するが、凹凸がある。指押さえ痕か。<遺存状況>肩部細片、器表やや歪曲。 |
| 213 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 2区 MI-9崩-G6913 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 口縫状、器表: 珪化を生じる。器表: 黄褐岩色(10YR 4/2)。<成形・調整>断面下部に斜条帶、突起で周回方向の隙の調査。以下に頭部に羽状現象(且既腹裂による)。<特記>外面部に脚部の付着物。<遺存状況>頭部細片 |
| 215 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 2区 MI-9崩-G6914 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂・細砂・糊状(花崗岩起源)を含む。断面: 圓筒状、器表: 黄褐色(10YR 5/3)。<成形・調整>外面部: 上部に園窓(丸棒状の穴)による羽状現象。圓窓より上位に周回方向の隙の調査。下位に周回方向の羽状現象(且既腹裂による)。内面: 扇で調査。顯著な凹凸を残す。<特記>器表に煤状の付着物が、底面に残る。<遺存状況>頭部細片 |
| 216 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 2区 MI-9崩-G6916 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂・細砂を含む(花崗岩起源)。断面: 四枚状、器表: 斜面に弱めの羽状現象。外面部: 黑色。内面(底盤部)も黒色(5Y 6/2)を呈す。<成形・調整>外面部: 周回方向の羽状現象(且既腹裂による)。下位に3条の沈窓。内面: 扇で調整を行う。器表は平滑、多段で残る。<遺存状況>頭部細片 |
| 217 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G6911 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 口縫状、器表: 斜面に弱めの羽状現象。外面部: 黑色。内面(底盤部)も黒色(5Y 6/2)を呈す。<成形・調整>外面部: 周回方向の羽状現象(且既腹裂による)。下位に3条の沈窓。内面: 扇で調整を行なう。器表は平滑、多段で残る。<遺存状況>頭部細片 |
| 218 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G6911 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂・細砂・糊状(花崗岩起源)を含む。断面: 口縫状、器表: 黄褐色(10YR 4/1)。<成形・調整>外面部: 扇で調整一周回方向の沈窓(2条)下に、斜文する条線(全周しない)。内面: 扇で調整を加えるが、整形時の凹凸が顯著に残る。<遺存状況>頭部細片 |
| 219 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G6932 <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性。粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 積状(芯部と器表部が分離)。器表: 黄褐岩色(10YR 6/2)。<成形・調整>外面部: 周回方向の隙の調査と調整。頭部に圓窓(4条の断面形状の状)。<特記>外面部に脚部の付着物か。<遺存状況>頭部細片 |
| 221 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G6931 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 口縫状、器表: 黄褐色(2.5Y 3/3)。断面は灰色(2.5Y 6/2)を呈す。<成形・調整>外面部: 周回方向の羽状現象(且既腹裂による)。下位に3条の沈窓。内面: 扇で調整を行なう。器表は平滑、多段で残る。<遺存状況>頭部細片 |
| 222 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G6931 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 口縫状、器表: 黄褐色(10YR 6/2)。<成形・調整>外面部: 扇で調整、斜め方向の隙の拡張と調整。隙状工具の使用によるものか。<特記>破片を整形したいため。<遺存状況>頭部細片 |
| 223 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G7843 <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性。粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 小やく層状。器表: にぼくげ色(2.5Y 6/3)。<成形・調整>外面部: 扇で調整、斜め方向の隙の拡張と調整。隙状工具の使用によるものか。<遺存状況>口縫部細片 |
| 224 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 3区 MI-9崩-G6785 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 黒色。長石が見見える。花崗岩起源。断面: 扇で調整。器表: 黄褐色(10YR 7/19)。<成形・調整>外面部: 全体に研磨(屈曲部以下)で周回方向の隙の調査と調整。隙状工具によるものか。<特記>破片を整形したいため。 |
| 225 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 3区 MI-9崩-G6785 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂を含む(花崗岩起源)。断面: 黒色。長石が見見える。花崗岩起源。断面: 扇で調整。器表: 黄褐色(10YR 7/19)。<成形・調整>外面部: 扇で調整。頭部に圓窓(3条)下に周回方向の羽状現象(且既腹裂による)。内面: 周回方向の隙の調査。 |
| 226 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 3区 MI-9崩-G7921 <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性。粗砂を含む。断面: 四枚状。器表: 黄褐岩色(10YR 6/2)。<成形・調整>外面部: 周回方向の隙の調査(3条)。<遺存状況>頭部細片 |
| 230 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 3区 MI-9崩-G7825 <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性。粗砂を含む(~2mm、花崗岩起源)と思われる砂の他に、角閃石を僅かに含む。花崗岩がラズムと思われる砂の粒を含む)。器表: 内部と同様でも黄褐色(10YR 5/2)、内面にぼくげ色(2.5Y)。<成形・調整>外面部: 周回方向の条線(光刻)。<特記>頭部細片。<遺存状況>頭部細片 |
| 231 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 3区 MI-9崩-G7825 <材質(断土・焼成)>断土: 粗砂。器表: 黄褐色。粗砂が混じる。器表: にぼくげ色(10YR 7/3)。<成形・調整>外面部: 周回方向の羽状現象(多段有軸)、且既腹裂による)。<遺存状況>頭部細片 |
| 236 | 生土器 高杯 (秀生/中崩) 1区 MI-9崩- <材質(断土・焼成)>断土: やや粒状性。粗砂・細砂が混じる(径2mmまで、花崗岩起源)。断面: 扇形。断面: 口縫状。器表: 黄褐色(2.5Y 6/2)。<成形・調整>口縫部: 大きく外反する内面に粘土を詰めて肥厚させ、上端面、外縫面を成形。内面: 口縫上面に隙縫を擴張。器表は内縫上面に粗粒の柱状現象に残る。<遺存状況>口縫部細片 |
| 300 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩- <材質(断土・焼成)>断土: 粒状性あるが均質。粗砂を僅かに含む(花崗岩起源)。器表: 黄褐色(2.5Y 1/1)。断面: やや粒状。<成形・調整>内底面・底部外面: 扇で調整。外底盤: 剥落して調査不明。内縫部: <遺存状況>底部1/2周の破片。断面: 器表荒れ、底盤付(復原)7.5cm |
| 308 | 生土器 傷 (秀生/崩前) 1区 MI-9崩-G6921 <材質(断土・焼成)>断土: やや粒状性。粗砂を含む(花崗岩起源)。器表: 外面の一部が黄褐色(10YR 4/2)のほかは、黒色。内面では斑状を呈す。<成形・調整>内底面・底部外面: 亂磨して調査方向に往復する隙の調査。わざかに上げ底状。<特記>底盤付。周縫部存表。<遺存状況>底部細片 |

表2 報告植物觀察表

| 回 | 通 告 | 物 品 名 | 記 述 |
|----|-----|---------------|---|
| 21 | 313 | 弥生土器 (弥生/前期) | 1区 MI-9-層-68813 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂を多量に含む(花崗岩配軸)。断面：横断部、部分的に層状。器表：に赤い黄色(2.5Y 6/3)。 <成形・調整>外面：鋸磨き調整(周回方向、斜めの短い単位)。内面：刷毛目調整(周回方向)。外底面：底部調整(接縫方向)。縫合部や下唇部に、わずかに上底状を呈す。 <遺存状況>底部に4枚の破片、器表は存続。 |
| 21 | 321 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-9-層-68845 <材質(粘土・焼成)>粘土：やや粒状性あり。粗砂へ粗粒を含む(花崗岩配軸)。 断面：横断部。器表：外面に赤黄褐色(10Y 5/2)。 <成形・調整>外面：鋸磨き調整(全面で)。内面：横断部で削り返し、扇形に向いて非常に深く。全面に施す。底部：縫合部で削り取る。 <特記>内面に縫合部の付着物。 <遺存状況>底部に3枚の破片、器表は存続。 |
| 21 | 345 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-9-層-68847 <材質(粘土・焼成)>粘土：赤褐色で、砂利や粗砂を僅かに含む(シルト質粘土)。 断面：横断。器表：に赤い黄色(10Y 5/3)。 <成形・調整>内面とも周回方向の鋸磨き調整(口縫合部も同様)。 <特記>> <遺存状況>口縫合部の破片、器表やや荒れ。 |
| 21 | 373 | 弥生土器 (弥生/中前期) | 1区 MI-9-層-68913 <材質(粘土・焼成)>粘土：細密、粗砂を頭著に含み粗纖維(赤色10Y 4/6)の縫合部に施される(花崗岩配軸)。断面：薄盤。器表：灰白色(2.5Y 8/7)。 <成形・調整>内面とも周回方向の鋸磨き調整(口縫合部)。 |
| 21 | 400 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-9-層-67934 <材質(粘土・焼成)>粘土：やや粒状性あり。粗砂を頭著に含む。底部：縫合部。 器表：内面に：純い黃褐色(10Y 6/3)。外面部の一部に黒斑。 <成形・調整>外底面：底部調整。平底で単位不明。光沢があり。内面：内面に指印や痕、全面に撫でて鋸磨か、砂粒が浮く。 <特記>外底面に、漆ぬみ状の付着物が残る。 <遺存状況>底部全周遺存。器表は存続。 |
| 21 | 451 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 2区 MI-9-層-68914 <材質(粘土・焼成)>粘土：細密と粗砂を含む(3mmまで)。断面：粗粒。器表：に赤い黄色(2.5Y 6/3)。断面上にいくほど緑色(7.5Y 6/4)。 <成形・調整>外面：削り毛目調整(組立)。内面：無で調整。口縫合部：大体よく外する頃の粘土を繕うた後→外方に面を形成→周回方向の撫で調整→外底面の下縁に刻み目。 <遺存状況>口縫合部の破片、器表やや荒れ。 |
| 21 | 457 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 2区 MI-9-層-68914 <材質(粘土・焼成)>粘土：やや粒状性あり。粗砂へ粗粒を含む(花崗岩配軸)。 断面：横断。器表：灰白色(2.5Y 7/2)。 <成形・調整>外底面：削り毛目調整(組立)。内面：指押え痕→撫で調整。内面は底面が平滑面ばかり、光沢を持つ。 <特記>内面に縫合部の付着物。 <遺存状況>底部に4枚の破片、器表やや荒れ。 |
| 21 | 461 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 2区 MI-9-層-67942 <材質(粘土・焼成)>粘土：粒状性アリ(シリト打上部)。粗砂を小量含む(6mm程度)。大山ガラスが混じる可能性あり。底部：縫合部。器表は荒れ。 |
| 21 | 467 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 2区 MI-9-層-67936 <材質(粘土・焼成)>粘土：頭著な粒状性あり。粗砂を含む(花崗岩配軸)。器表は土塗りで、褐色土塗り棒(2.5Y 6/3)。 <成形・調整>内面：器表を見て不詳。底部に近では指押え痕→周回方向の撫で調整(帯状)。内面：撫で調整。 <遺存状況>底部(4枚の破片)。器表は著しく荒れ。 |
| 21 | 489 | 弥生土器 (弥生/中前期) | 3区 MI-9-層-67911 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂を頭著に含む(6mmまで)。花崗岩配軸。器表は黒色(2.5Y 7/2)。 断面：横断。器表以外は黒色。器表：灰黄色(2.5Y 7/2)。 <成形・調整>内面とも周回方向の撫で調整。口縫合部：器表荒れ。 |
| 21 | 510 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 3区 MI-9-層-67835 <材質(粘土・焼成)>粘土：微細な粗纖維を含む(3mmまで)。花崗岩配軸か。 <成形・調整>内面：器表を見て不詳。底部：縫合部(原厚)11.7cm。 |
| 21 | 521 | 弥生土器 (弥生/中前期) | 3区 MI-9-層-67825 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂へ粗粒を含む(6mmまで)。花崗岩配軸。器表は白黒相間で、花崗岩配軸か。断面：横断。器表以外は黒色。器表：灰黄色(2.5Y 7/2)。 <成形・調整>内面と周回方向の撫で調整。内面に：無の平坦面。 <遺存状況>口縫合部の破片、器表は存続。 |
| 21 | 533 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 3区 MI-9-層-67931 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂を僅に含む(6mmまで)。 断面：層状。器表：に赤い黄色地(10YR 6/3)。 <成形・調整>外底面：周回方向の撫で調整。内面：無で調整。 |
| 21 | 559 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 3区 MI-9-層-67931 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂へ粗粒を含む(6mmまで)。花崗岩配軸か。断面：横断。器表以外は灰白色(2.5Y 4/2)。 <成形・調整>底部：円錐形の粘土柱貼り付け。高台状となる。底部側面：丸状の工具痕跡。内面と外底面：撫で調整。内面：無で調整。 |
| 21 | 563 | 弥生土器 (弥生/中前期) | 3区 MI-9-層-67922 <材質(粘土・焼成)>粘土：やや粒状性あり。粗砂を僅に含む(6mmまで)。 断面：層状。器表：に赤い黄色地(10YR 6/3)。 <成形・調整>外底面：周回方向の撫で調整(口縫合部)。内面：無で調整。口縫合部：底部は下縁→上縁の間に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 <遺存状況>口縫合部の破片。底部(原厚)12.3cm。 |
| 21 | 540 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 3区 MI-9-層-67921 <材質(粘土・焼成)>粘土：頭著な粒状性。粗砂を含む(2mmまで)。花崗岩配軸か。断面：横断。器表：に赤い黄色地(10Y 5/3)。 <成形・調整>底部：円錐形の粘土柱貼り付け。高台状となる。底部側面：丸状の工具痕跡。内面と外底面：撫で調整。内面に：無の平坦面。 <遺存状況>底部(4枚の破片)。器表は存続。 |
| 22 | 297 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-1-層-67920 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂を含む(2mmまで)。花崗岩配軸か。断面：横断。器表：灰黄色(10Y 6/2)。 <成形・調整>外底面：口縫合部に撫で調整、以下に周回方向の撫で毛目調整(口縫合部)。内面：無で調整。口縫合部：底部は下縁→上縁の間に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 <遺存状況>口縫合部の破片、器表やや荒れ。 |
| 22 | 560 | 弥生土器 (弥生/中前期) | 3区 MI-9-層-67922 <材質(粘土・焼成)>粘土：粒状性あり。粗砂へ粗粒を含む(2mmまで)。花崗岩配軸か。 <成形・調整>内面と外底面：口縫合部に撫で調整。内面：無で調整。口縫合部：底部は下縁→上縁の間に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 <遺存状況>口縫合部の破片、器表やや荒れ。 |
| 22 | 513 | (弥生/前中期) | 3区 MI-9-層-67825 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂を含む(2mmまで)。花崗岩配軸か。断面：灰黄色(2.5Y 1/1)。 <成形・調整>外底面：周回方向の撫で調整→縫合部調整(縫合部)。内面：無で調整。口縫合部：底部は下縁→上縁の間に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 <遺存状況>口縫合部の破片、器表やや荒れ。 |
| 22 | 294 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-1-層-67825 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂を含む(2mmまで)。断面：横断。器表は灰白色(10Y 6/2)。 <成形・調整>外底面：口縫合部に撫で調整、以下に周回方向の撫で毛目調整(口縫合部)。内面：無で調整。口縫合部：底部は下縁→上縁の間に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 <遺存状況>口縫合部の破片、器表やや荒れ。 |
| 22 | 295 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-1-層-67825 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂を含む(2mmまで)。断面：横断。器表：灰黄色(10Y 6/2)。 <成形・調整>外底面：口縫合部に撫で調整、以下に周回方向の撫で毛目調整(口縫合部)。内面：無で調整。口縫合部：底部は下縁→上縁の間に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 <遺存状況>口縫合部の破片、器表は存続。 |
| 22 | 318 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-1-層-67842 <材質(粘土・焼成)>粘土：やや粒状性あり。粗砂を含む(2mmまで)。断面：横断。器表は灰黄色(2.5Y 5/2)3型。器表：灰黄色(2.5Y 5/2)3型。 <成形・調整>内面：無で調整。口縫合部に撫で調整、縫合部に縫合目(矢張り3型)。外底面：口縫合部に刷毛目調整。内面：口縫合部に斜方向の刷毛目調整。内面の端部に：無で調整。指押え痕あり。口縫合部端面に隙間を開けで斜め自(捷狀工具)か。 <特記>外底面に縫合部の付着物。 <遺存状況>口縫合部の破片、器表は存続。 |
| 22 | 321 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-1-層-67845 <材質(粘土・焼成)>粘土：粒状性あり。粗砂を含む(3mmまで)。花崗岩配軸か。器表：灰黄色(10Y 6/3)。 <成形・調整>外底面：口縫合部に撫で調整、以下に周回方向の刷毛目調整(口縫合部)。内面：無で調整。口縫合部：底部は下縁→上縁の間に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 |
| 22 | 326 | 弥生土器 (弥生/前中期) | 1区 MI-1-層-67855 <材質(粘土・焼成)>粘土：粗砂を含む(3mmまで)。花崗岩配軸か。器表：灰黄色(10Y 6/3)。 <成形・調整>内面：無で調整。口縫合部に撫で調整、以下に周回方向の刷毛目調整(口縫合部)。内面：無で調整。口縫合部：底部は下縁→上縁の間に整形(丸め)→結果として端面に凹面を形成。 |

| 図 番号 | 遺 物 記 述 |
|---------|--|
| 22 | 331 野生土器 壺(野生/前期) 1区 M1-9層-G7843 <材質(粘土・焼成)>粘土: 黒密、粗砂を含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。器表: 外面黒色、内面灰黃褐色(10YR 6/2)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整(斜)→口縁端部周辺に周回方向の撫で調整。内面: 周回方向の刷毛目調整(細い単位で練り直し)。口縁端部は外一面→端面→内面の順に整形。<特記>外面に煤状付着物有り。全體に周回方向の撫で調整→口縁端下間に刻み目(幅広)。<特記>口唇以下の外面に煤状の付着物厚く残る(斑状)。<遺存状況>口縁部細片、器表遺存。 |
| 22 | 332 野生土器 壺(野生/前期) 1区 M1-9層-G7843 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。器表: にぶい黄褐色(10YR 5/3)。<成形・調整>外面: 粘土・粗砂目調整、縱方向。内面: 粘土・粗砂目調整(周回方向)→口縁部に周回方向の撫で調整→口縁端下間に刻み目(幅広)。<特記>口唇以下の外面に煤状の付着物厚く残る(斑状)。<遺存状況>口縁部細片。 |
| 22 | 333 野生土器 壺(野生/中前期) 1区 M1-9層-G7854 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。器表(内部): 灰黃褐色(10YR 6/2)。<成形・調整>外面: 窄帯貼り付け→周回方向の撫で調整→口縁端部に周回方向の刷毛目調整(狭く)→口縁端部下に周回方向の撫で調整(強く押さえて凹状を呈す)。→口縁部: 周回方向の撫で調整(口縁端面を形成)。上方から丸め。<特記>口縁部以下の外側には堤状に煤状の付着物有り。<遺存状況>口縫部細片、器表遺存。 |
| 22 | 336 野生土器 壺(野生/前期) 1区 M1-9層-G7854 <材質(粘土・焼成)>粘土: やや粒状性あり。粗砂を小量含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。付着物を含む。器表: 明灰黄色(2.5Y 6/2)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整→周回方向の撫で調整。内面: 口縁部細片、器表遺存。 |
| 22 | 337 野生土器 壺(野生/中前期) 1区 M1-9層-G7854 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(花崗岩起源か)。断面: 四角状。器表(内部): にぶい黄褐色(10YR 6/2)。明灰黄色(5YR 6/3)の円錐形がある。<成形・調整>外面: 口縁部直下から刷毛目調整(斜右下)。やや下の位置に圓錐形(えん錐形)。内面: 口縁部直下に周回方向の撫で調整(強く押さえて凹状を呈す)。→口縁部: 窄帯貼り付け→周回方向の撫で調整。外端面に刻み目。<遺存状況>口縫部細片。 |
| 22 | 338 野生土器 壺(野生/前期) 1区 M1-9層-G7854 <材質(粘土・焼成)>粘土: やや粒状性あり。粗砂を含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。器表(内部): 灰褐色(10YR 3/3)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整→周回方向に細い単位で行う。外面: 体部に縱方向の刷毛目調整。<特記>口唇以下の外面に煤状の付着物厚く残る。<遺存状況>口縫部細片。 |
| 22 | 340 野生土器 壺(野生/前期) 1区 M1-9層-G7834 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗密、粗砂を含む(径2mmまで)。花崗岩起源か。器表: 構造(細かな間隔)か。器表: にぶい黄色(2.5Y 6/3)。<成形・調整>外面: 周回方向の撫で調整(窓附點部)。内面: 刷毛目調整(窓附點を残す)。器表が壊れた狀態か。<遺存状況>口縫部細片、器表の遺存。 |
| 22 | 343 野生土器 壺(野生/中前期) 1区 M1-9層-G7834 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗密、粗砂を含む(花崗岩起源か)。断面: 四角状。器表(内部): にぶい黄褐色(10YR 6/3)。<成形・調整>外面: 宽い縫合部。器表は周回方向に刷毛目調整。内面: 撫で調整(縫合部平滑)。水の浮いた状態か。口縫部: 上端面に周回方向の接線方向の刷毛目調整。他は周回方向の撫で調整。<特記>外側の全体に口縫部付近の内面に海み状の付着物有り。<遺存状況>器表遺存。 |
| 22 | 346 野生土器 壺(野生/中前期) 1区 M1-9層-G7834 <材質(粘土・焼成)>粘土: やや粒状性あり。粗砂まで含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。断面: 明灰黄色(2.5Y 5/2)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整、縫合部外側、刷毛目調整(細)。<特記>内外面に粒状物・付着物。外側に煤状付着物(口縫部端面)。内面に付着物。<遺存状況>器表遺存。 |
| 22 | 354 野生土器 壺(野生/前期後半) 2区 M1-9層-G7834 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(径1mm以下が大半)。器表(内部): 灰黃褐色(10YR 5/2)。<成形・調整>外面: 口縫部から刷毛目調整(細)、粗目。<特記>内外面に周回方向の刷毛目調整一括で調整。<遺存状況>器表遺存。 |
| 22 | 355 野生土器 壺(野生/中前期) 2区 M1-9層-G7834 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(径1mmまで)。中縫(径7mmまで)にも含む。断面: 扇状拂。器表(表面): 内面にびつ黄褐色(7.5Y 5/4)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整(細)→内面: 口縫部下に周回方向の刷毛目調整→撫で調整。一口縫部: 周回方向の撫で調整(→口縫部上端面の撫で調整)。<遺存状況>口縫部細片。 |
| 22 | 380 野生土器 壺(野生/前中期) 2区 M1-9層-G6041 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂～細繊維を頗るに含む(径1mmまで)。器表: 明灰黑色(7.5Y 7/2)。<成形・調整>内外面とも撫で調整。<遺存状況>口縫部細片。器表赤れ(外端面)。 |
| 22 | 411 野生土器 壺(野生/中前期) 2区 M1-9層 <材質(粘土・焼成)>粘土: やや粒状性あり。粗砂を含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。断面: 四角状。器表: にぶい黄褐色(10YR 7/2)。体部外面上に黒斑。<成形・調整>口縫部荒れて縫合不確、撫で調整か。体部外端面刷毛目調整(細)、壳に施す。内面撫で調整。<特記>体部外面上の全体に海み状の付着物有り。<遺存状況>口縫部細片、器表やや荒れ。 |
| 22 | 415 野生土器 壺(野生/中前期) 2区 M1-9層 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(径1mmまで)。器表: 灰白色(2.5Y 7/1)、灰黃褐色(2.5Y 6/2)が斑状に分布。<成形・調整>外面: 体部に粗い刷毛目調整(窓)。やや下の位置に刷毛目調整(細)。内面: 口縫部外側; 周回方向の撫で調整。<特記>口縫部から外面にかけて海み状の変化。<遺存状況>口縫部細片。器表やや荒れ。 |
| 22 | 435 野生土器 壺(野生/中前期) 2区 M1-9層-G7945 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。器表(内部): にぶい黄褐色(10YR 7/2)。体部外面上に黒斑。<成形・調整>口縫部荒れて縫合不確、撫で調整か。体部外端面刷毛目調整(細)、壳に施す。内面撫で調整。<特記>外側の口縫部端面直下に煤状付着物。それより下に海み状の付着物有り。<遺存状況>口縫部細片。 |
| 22 | 440 野生土器 壺(野生/中前期) 2区 M1-9層-G7945 <材質(粘土・焼成)>体部: やや粒状性あり。粗砂を含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。器表: にぶい黄褐色(10YR 7/2)。<成形・調整>器表荒れて縫合不確、撫で調整。口縫部端部では周回方向。<遺存状況>口縫部細片。器表荒れ。 |
| 22 | 442 野生土器 壺(野生/中前期) 2区 M1-9層-G7945 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粒状性あり。粗砂を含む(径2mmまで)。断面: 扇状拂。器表: 灰褐色(10YR 6/1)。<成形・調整>外面: 脱膜・刷毛目調整(細)→周回方向に撫で調整(窓附點を呈す)→口縫部: 周回方向に周回方向の撫で調整。内面: 口縫部に沿う指押さえ→撫で調整→口縫部下に周回方向の撫で調整(窓附點を呈す)→口縫部端面拂て溝歴(周回方向)。口縫部: 周回方向の撫で調整一括噴面に刻み目(やや深みある工具による)。<遺存状況>口縫部細片。器表遺存。 |
| 22 | 458 野生土器 壺(野生/前期後半) 2区 M1-9層-G7953 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(花崗岩起源か)。器表: 灰褐色(10YR 4/2)。<成形・調整>内面: 撫で調整。外端: 刷毛目調整(細)→周回方向の撫で調整。<遺存状況>口縫部細片。器表荒れ。 |
| 22 | 488 野生土器 壺(野生/中前期) 3区 M1-9層-G7911 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂を含む(径2mmまで)。花崗岩起源か。器表: 灰褐色(2.5Y 6/2)。<成形・調整>内外面: 口縫部端面に刻み目。<特記>粘土で他の個体と重ね。器表やや荒れ。 |
| 22 | 498 野生土器 壺(野生/前期前半) 3区 M1-9層-G7835 <材質(粘土・焼成)>粘土: やや粒状性あり。粗砂を含む(径2mmまで)。花崗岩起源か。器表: にぶい黄褐色(10YR 6/3)。<成形・調整>内外面とも撫で調整。体部に指押さえ痕。口縫部外端面刷毛目調整、端部が上方に跳ね上げるような形状。<遺存状況>口縫部細片、器表やや荒れ。 |
| 22 | 506 野生土器 壺(野生/前期後半) 3区 M1-9層-G7835 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗砂～細繊維を含む(径1mmまで)。花崗岩起源か。器表: 内面に灰褐色(10YR 7/2)。内面: 黑面黒色。<成形・調整>外面: 口縫部端面に刻み目(花崗岩起源か)。内面: 口縫部端部(復原)2cm。<特記>口縫部に周回方向の撫で調整。<遺存状況>口縫部細片、器表遺存。 |
| 22 | 516 野生土器 壺(野生/中前期) 3区 M1-9層-G7825 <材質(粘土・焼成)>粘土: 粗密、粗砂を含む(径2mm間)。断面: 番状。器表(内部): 灰褐色(10YR 5/2)。<成形・調整>口縫部: 周回方向の撫で調整。体部: 外面刷毛目調整(細)、内面刷毛目調整、指押さえ痕が残る。<特記>外面には口縫部端部で煤状付着物が密に残る(一様)。<遺存状況>口縫部細片、器表遺存。 |
| 22 | 518 野生土器 壺(野生/前期後半) 3区 M1-9層-G7825 <材質(粘土・焼成)>粘土: やや粒状性あり。粗砂を含む(径2mm)。断面: 層状。器表: にぶい黄褐色(2.5Y 6/2)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整(細)→周回方向の撫で調整。内面: 口縫部端部に刻み目(工具を押しつけたもの)、横に刻み目。<特記>内面に指押さえ痕。<遺存状況>口縫部細片、器表やや荒れ。 |
| 22 | 523 野生土器 壺(野生/中前期) 3区 M1-9層-G7825 <材質(粘土・焼成)>粘土: やや粒状性あり。粗砂を含む(径2mm)。断面: 層状。器表(内部): 灰褐色(10YR 6/2)。<成形・調整>外面: 板状外面部に刷毛目調整(細)、粗目。内面: 口縫部から続く刷毛目調整(斜右下)→撫で調整(口縫部)→撫で調整(上端面→外側の口縫部底面直下まで)。<遺存状況>口縫部細片、器表遺存。 |

表 4 報告遺物觀察表

29

| 図 | 記番号 | 遺物 記述 |
|----|-----|--|
| 23 | 353 | 弥生土器 養(弥生/中原中葉) 25K M1-9層-G7834 <材質(粘土・施成)>土質：緻密、粗砂を頗るに含む(径2mmまで、1cm前後に集中)、花崗岩起原から。断面：團粒状、口縁部層状。器表：にぶい褐色(7.5YR 7/3)、芯部は黒化(黄灰色 2.5Y 5/1)。器表の色調は、被熱したような印象(外面部とし)。<成形・調整>外面：刷毛目調整(糸、粗目)→撫で調整、内面：周回方向の刷毛目調整(部分的に残る)→撫で調整。 |
| 23 | 356 | 弥生土器 養(弥生/前期) 2区 M1-9層-G7834 <材質(粘土・施成)>土質：やや粒状性あり、粗砂を含む(径3mmまで、花崗岩起原から)。断面：層状。器表：灰黄色(2.5Y 7/2)、半ばは黒泥。<成形・調整>外面：刷毛目調整(糸、粗目)→撫で調整、内面：周回方向の刷毛目調整(部分的に残る)→撫で調整。 |
| 23 | 368 | 弥生土器 養(弥生/前期) 2区 M1-9層-G7933 <材質(粘土・施成)>土質：やや粒状性あり、細粒までを含む(径4mmまで、花崗岩起原と思われるものの他、火山ガラス・角閃石とみられる細粒が見える)。断面：團粒状。器表(外側)：鈍い黄褐色(10YR 6/3)。<成形・調整>外面：刷毛目調整(糸)→撫で調整、外底面：撫で調整(接觸方向、帯状の凹部を形成)。<特記>内面・外底面に滲み状の付着物、内面には薄く、<遺存状況>底部1/2周の破片、底部径8.7cm。 |
| 23 | 371 | 弥生土器 養(弥生) 25K M1-9層-G8913 <材質(粘土・施成)>土質：粒状性あり、細砂・粗砂を含む(径2mm)。器表：灰白色(10YR 3/2)。<成形・調整>外面：刷毛目調整(糸)→撫で調整、内面には薄く、<遺存状況>底部1/2周の破片、底部径8.7cm。 |
| 23 | 385 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 25K M1-9層-G841 <材質(粘土・施成)>土質：粒状性あり。細砂・粗砂を含む(径3mmまで、花崗岩起原から)。断面：團粒状。器表：明黄褐色(10YR 6/4)。外底面：黑褐色(10YR 3/2)。<成形・調整>器表荒れ不詳。内外面とも撫で調整か。<特記>内面に付着物、外底面に特に薄く、<遺存状況>口縁部細片、器表やや荒れ。 |
| 23 | 388 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 25K M1-9層-G8041 <材質(粘土・施成)>土質：やや粒状性あり、粗砂を含む(径1mm前後が大半)。花崗岩起原から。断面：团粒状。器表：外面灰白色(8/2)、内面黒褐色(7.5YR 5/6)。断面では明赤褐色(5YR 5/6)。<成形・調整>外底面：刷毛目調整(糸)。内面：指押さえ痕。外底面→中央回転。<遺存状況>底部大分、器表やや荒れ、底径7.1cm。 |
| 23 | 399 | 弥生土器 養(弥生/中原中葉) 25K M1-9層-G7935 <材質(粘土・施成)>土質：粒状性あり。粗砂を含む(径1mm以上)。花崗岩起原から。器表の後様(土とみる)も含む。断面：層状。器表：灰黄色(2.5Y 7/2)。<成形・調整>外底面：刷毛目調整(糸、部分的に残る)→撫で調整(断面方向)。内面：撫で調整(平滑で、擦離き調整済み)→べきか。内底面(回部内面)：指押さえ痕→撫で調整。<特記>薄い状況<底部小片、器表部(底径)8.2cm。 |
| 23 | 405 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 25K M1-9層-G7944 <材質(粘土・施成)>土質：緻密性あり。粗砂を含む(径3mmまで、花崗岩起原から)。断面：團粒状。器表：にぶい黄褐色(2.5Y 6/3)。<成形・調整>外底面：指押さえ痕。器表ややえず(頭等な凹部を残す)。外底面：撫で調整(砂粒の移動跡)。<遺存状況>底部全部の破片、底部径4.8cm。 |
| 23 | 410 | 弥生土器 線(弥生/前期前葉) 25K M1-9層-G7945 <材質(粘土・施成)>土質：粗砂・繊維を含む(～1mm)。断面：層状。器表：外底面にない黄褐色(10YR 6/3)、内底面黒褐色(似)。<成形・調整>内面とも底面に擦離き調整済み。外面では周回方向、部分的に縦方向に残る。<遺存状況>口縁部細片、器表存良好。 |
| 23 | 412 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 25K M1-9層-G7946 <材質(粘土・施成)>土質：粒状性あり。粗砂を含む(径1mmまで、花崗岩起原から)。断面：層状。器表：にぶい黄褐色(10YR 6/3)。<成形・調整>外底面：刷毛目調整(糸、密に施工)→内面：指押さえ痕(底)→撫で調整。一部口縁部内面に周回方向の撫で調整跡。<遺存状況>口縁部細片、器表存良好。 |
| 23 | 447 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 25K M1-9層-G7845 <材質(粘土・施成)>土質：やや粒状性あり、細砂・粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起原から)。断面：團粒状。器表：にぶい黄褐色(7.5YR 6/4)。<成形・調整>外面：底部付近に押さえ痕→刷毛目調整(糸、やや粗・4個目)。内底面に指押さえ痕(部品の)のはけはけで調整。外底面：中央に回転、擦離き調整が半滑→若干光沢。外周部底面で調整、他のようないか限の分布なし。<特記>外底面相当部の擦離きが丁寧であり、天地逆とし、蓋とも考えられる。<遺存状況>底部1/4周の破片、器表部の器表部に残る。底径6.6cm。 |
| 23 | 453 | 弥生土器 養(弥生/前葉後手) 25K M1-9層-G8914 <材質(粘土・施成)>土質：緻密、粗砂を頗るに含む。断面：層状、褐色系(10YR 6/4)。器表：にぶい褐色(5YR 6/4)。<成形・調整>外面：刷毛目調整(糸)→体部に周回方向の撫で調整。内底面に撫で調整(周回方向)。後円部：周回方向の撫で調整、断面は周回方向の刷毛目調整か。<特記>内外面に滲み状の付着物、外底面以下に堆積付着物。<遺存状況>口縁部細片。 |
| 23 | 478 | 弥生土器 養(弥生/中原中葉) 35K M1-9層-G7815 <材質(粘土・施成)>土質：粗砂を含む(径1mmまで)。断面：團粒状。器表：にぶい褐色(7.5YR 6/4)。<成形・調整>口縁部(内外面)：周回方向の撫で調整。体部の外表面刷毛目調整(糸)→体部に周回方向の撫で調整。内底面に撫で調整、部分的に周回方向の撫で調整。 |
| 23 | 479 | 弥生土器 養(弥生/中原中葉) 35K M1-9層-G7815 <材質(粘土・施成)>土質：やや粒状性あり。細砂・粗砂を含む(径1mm)。繊維・砂分多く。断面：層状、繊維を生じる。器表：黒褐色(10YR 3/2)。<成形・調整>内底面：周回方向の刷毛目調整→周回方向の撫で調整か。<特記>内底面に滲み状の付着物、外底面：撫で調整、粗面を残す。<遺存状況>底部3周の破片。 |
| 23 | 481 | 弥生土器 養(弥生/前葉後手) 35K M1-9層-G7824 <材質(粘土・施成)>土質：やや粒状性あり。粗砂を頗るに含む(径2mmまで、花崗岩起原を見る)。がくに角閃石などが見える。断面：層状。器表：灰黄色(2.5Y 6/2)。<成形・調整>外底面：刷毛目調整(糸)。内底面(底面)：撫で調整。中央部強化に回転、全面に撫で調整。<特記>内底面に滲み状の付着物、外底面：撫で調整、粗面を残す。<遺存状況>底部3周の破片、底径7.2cm。 |
| 23 | 483 | 弥生土器 養(弥生/前葉後手) 35K M1-9層-G7824 <材質(粘土・施成)>土質：粗砂を含む(径2mmまで)。断面：團粒状。器表(外側)：にぶい褐色(5YR 5/4)、内側は深色。底面は灰褐色。<成形・調整>外面：刷毛目調整(糸)→内底面：撫で調整(糸)→底面：周回方向の撫で調整。内底面に粗面を残す。<遺存状況>底部3周の破片、底径7.6cm。 |
| 23 | 519 | 弥生土器 養(弥生/中原中葉) 35K M1-9層-G7825 <材質(粘土・施成)>土質：粗砂を含む(径2mmまで)。断面：團粒状。器表：にぶい褐色(5YR 5/4)。器表(内側)：にぶい褐色系(10YR 7/2)。<成形・調整>外面刷毛目調整(糸)→内底面：撫で調整(糸が浮き、やや粗目)→口縁部周回方向の撫で調整。口縁部上面では接合部付近に対称部はやほり目(内面と同様)。貼付部は滑らかな面で条痕が残る。<特記>口縁部以下の外側に堆積の付着物が現るに残る。<遺存状況>口縁部細片、器表存良好。 |
| 23 | 522 | 弥生土器 養(弥生/中原中葉) 35K M1-9層-G7825 <材質(粘土・施成)>土質：粗砂を頗るに含む(径1mmまで、花崗岩起原から)。断面：層状、深部黄褐色(2.5Y 5/1)。器表(内側)：にぶい褐色系(10YR 7/2)。<成形・調整>外面刷毛目調整(糸)→内底面：撫で調整(糸が浮き、やや粗目)→口縁部周回方向の撫で調整。外底面：体部に刷毛目調整(糸)→口縁部周回方向の撫で調整、やや下の位置に断面三形形態吊革貼り付け。内底面：周回方向の刷毛目調整(糸)→底面。<特記>口縁部下面に以下の外側に滲み状の付着物。見火焼状を呈する部分あり。この部分は褐色(5Y 5/1)。<遺存状況>口縁部細片、器表やや荒れ。 |
| 23 | 536 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 35K M1-9層-G7921 <材質(粘土・施成)>土質：繊維・粗砂を頗るに含む(花崗岩起原から)。断面：層状、深部黄褐色(2.5Y 5/1)。器表(内側)：灰黄色(2.5Y 7/2)。<成形・調整>外底面刷毛目調整(糸)→撫で調整→周回方向の刷毛目調整；外底面：刷毛目調整(糸)→内底面：撫で調整(砂が浮き、やや粗目)→口縁部周回方向の撫で調整。周縁部に回転してある四凹面。<特記>内底面に滲み状の付着物。<遺存状況>底部全周付着の崩れ、器表存良好。底径(後)6cm。 |
| 23 | 544 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 35K M1-9層-G7921 <材質(粘土・施成)>土質：緻密、粗砂を含む(径1mm前後が主)。花崗岩起原から。断面：團粒状。器表：灰黄色(2.5Y 6/2)。<成形・調整>外底面：刷毛目調整(糸)→内底面：指押さえ痕→周回方向の刷毛目調整(糸)→底面。<特記>内底面に滲み状の付着物。<遺存状況>底部全周付着の崩れ、器表存良好。 |
| 23 | 549 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 35K M1-9層-G7941 <材質(粘土・施成)>土質：緻密、粗砂を含む(花崗岩起原から)。断面：團粒状。器表：灰黄色(2.5Y 6/2)。<成形・調整>外底面：刷毛目調整(糸)→内底面：指押さえ痕→周回方向の刷毛目調整→外底面：刷毛目調整(糸)。<特記>口縁部周回方向の撫で調整。<遺存状況>口縁部小片、器表やや荒れ。口縁部(後)20.8cm。 |
| 23 | 554 | 弥生土器 養(弥生/中原前葉) 35K M1-9層-G7931 <材質(粘土・施成)>土質：粗砂・繊維を頗るに含む(5mmまで、花崗岩起原から)。断面：團粒状。器表：灰黄色(10YR 6/2)。全体がくすんだような状態。<成形・調整>体部に滲み状・煤状の付着物。<遺存状況>口縁部細片、器表やや荒れ。 |

表6 報告遺物観察表

| 図 番 号 | 遺 物 名 | 記 述 |
|-------------|-------------|--|
| 23 | 553 | 弥生土器 壺(弥生/中期中葉) 3区 MI-9層-G7931 <材質(粘土・焼成)>胎土: やや粒状性あり。粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起原か)。断面: 団粒状で多数の網孔を有する。器表: 赤灰色(2.5Y 6/2)、くすんだような状態。<成形・調整>外面: 刷毛目調整(直、向きを揃える)一部に突起貼付(断面三角形)、周回方向の擦で調整。 内面: 周回方向の刷毛目調整→擦で調整。 <遺存状況> ピッケル痕片、器表存長 |
| 23 | 560 | 弥生土器 壺(弥生/前期中葉) 3区 MI-9層-G7931 <材質(粘土・焼成)>胎土: 粗砂を含む(径2mmまで、褐色土塗料を含む)。断面: 团粒状。 器表(外面): にぶい赤褐色(3YR 2/3)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整(直、單位)。 内面: 擦で調整。 底面: 体部整形後、粘土板で塞ぐ。相互に粘土を引き延ばし整形したものの。 <特記>内面顔やや上がった位置以上の器表に塗み城の付着物。 <遺存状況> 底部1/4周の被片、底部(底)9.4cm |
| 23 | 561 | 弥生土器 壺(弥生/前期中葉) 3区 MI-9層-G7931 <材質(粘土・焼成)>胎土: 粘密、粗砂・細繊を含む(径2mmまで、花崗岩起原か、褐色の土塗料を含む)。断面: 团粒状。 器表: (外面)にぶい橙色(7.6YR 7/4)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整(直)→擦で調整。 内面: 擦で調整、平面で、強がに上げ底状。 <特記>内面に滲み付着物。底状に塗膜の付着物。 <遺存状況> 底部1/3周の被片、底部径8.8cm |
| 23 | 562 | 弥生土器 壺(弥生/前期中葉) 3区 MI-9層-G7931 <材質(粘土・焼成)>胎土: 粘密、粗砂を含む。断面: 团粒状。 器表: にぶい黄褐色(10YR 7/2)。断面にぶい褐色(2.5YR 6/4)。<成形・調整>外面: 刷毛目調整(直、下方向)。 内面: 擦で調整(砂粒が残る)。外底面: 擦で調整(粗く、凹凸感が残る)。 <特記>内面赤化。 <遺存状況> 底部1/3周の被片、器表や花崗岩底端(直径8.4cm) |
| 23 | 573 | 弥生土器 壺(弥生/前期中葉) 3区 MI-9層-G7922 <材質(粘土・焼成)>胎土: 粘密・粗砂を含む(径2mmまで、花崗岩起原か)。断面: 团粒状。 器表: 暗灰(2.5Y 7/7)。<成形・調整>外面: 底面近くに指印さえあれ、擦で調整。 <遺存状況> 底部破片、器具存具 |
| 23 | 571 | 弥生土器 壺(弥生/中期中葉) 3区 MI-9層-G7922 <材質(粘土・焼成)>胎土: 粘砂を顯著に含む(径2mmまで、花崗岩起原か)。断面: 团粒状。 器表: 橙色(5YR 6/6)。<成形・調整>外側: 刷毛目調整(直)、底に擦で調整。 内面: 欠失して調査不明。外底面: 中央に閉部、外接部は擦で調整(くぼた部分)、底付の未調整部分アリ。強い凹陥状の部分が残る(工具の擦過痕か)。 <遺存状況> 底部破片、底部内面、底部径7cm |
| 28 | 28 | 石器・利器 砕石・剥片(縄文時代) 1区 MI-9層-G7642 <材質(粘土・焼成)>石材: 黒曜石(濃い層状斑)。強いガラス状光沢、成形・調整>素材は木彫彫刻片か。素材打面を欠き取り、間基部成形(縁部両面側からの加工)。 <遺存状況> 完存 長3.3cm / 幅2.2cm / 厚0.3cm |
| 24 | 61 | 土製品 技斧 2区 MI-9層-G7930 <材質(粘土・焼成)>胎土: 粘砂・粗砂を含む。器表: 橙灰色(10YR 3/1)、大部分は黒度部。<成形・調整>表面は擦で調整。底面でやや光沢をもつ。<遺存状況>半ばを欠く。長:現状2.8cm / 幅: 2cm |
| 24 | 111 | 土製品 織錦車 (弥生) 3区 MI-9層-G7931 <材質(粘土・焼成)>胎土: やや粒状性。織錦車・粗砂を含む。断面: 团粒状。 器表: 黑褐色(2.5Y 3/3)。<成形・調整>手摩ね成形、器表に指印さえあれ(横に擦る)。 <遺存状況> 半を欠く。長: 3.1cm / 幅: 1.5cm |
| 24 | 113 | 土器・器具 織錦車 (弥生/前期) 3区 MI-9層-G7825 <材質(粘土・焼成)>石材: 片岩 <成形・調整>全面を平滑に研磨。 <遺存状況> 半ばを欠く。径4.7cm / 厚0.7cm / 手幅9cm |
| 24 | 202 | 石器・道具 織錦車 (弥生/前期) 3区 MI-9層-G7815 <材質(粘土・焼成)>石材: 石滑 _※ 成形・調整>全面を平滑に研磨。両方向から穿孔。孔の上下面付近に纏錦車の工具痕。穿孔工具は先端半球状か。 <遺存状況> 半ばを欠く。径3.9cm / 手幅0.9cm / 手の径6cm |
| 24 | 203 | 石器・道具 織錦車 (弥生) 3区 MI-9層-G7824 <材質(粘土・焼成)>石材: 片岩 <成形・調整>上面には石材節理により厚薄あり。前面: 平滑に研磨。 <遺存状況> 半ばを欠き、全体に削痕。径5.6cm / 厚0.6cm |
| 24 | 208 | 土製品・器具 織錦車 (弥生) 2区 MI-9層-G7642 <材質(粘土・焼成)>胎土: 粘密、粗砂を小量含む。器表: にぶい灰褐色(10YR 5/3)。半ばは剥離。 <成形・調整>器表: 擦で調整(底面は剥離)、全面に柔軟な光沢部(黒旋部に剥離)。 全体に反りがある。 <遺存状況> 完存 径3.7cm / 幅1.2cm |
| 24 | 220 | 土製品 織錦車(未完成) 1区 MI-9層-G8941 <材質(粘土・焼成)>胎土: 滑面。粗砂を含む。断面: 团粒状。 <成形・調整>両側面に斜削破片を、平面円形に打ち大きな完整性。土器の内部面の中央に穿孔(小径、末貫通)。土器の外側、擦で調整一箇所。羽状穴(丸吹孔の工具による上昇)。内面、隙間に擦れ跡。 <遺存状況> 完存 径6.7cm / 幅0.7cm |
| 24 | 229 | 石器・利器 砕石 (未完成) 3区 MI-9層-G7825 <材質(粘土・焼成)>石材: ホルンブッシュか <成形・調整>頭部側の一部に研削痕。 他是粗い刮削面で構成。縁部の内面には小剝離痕がある。 <遺存状況> 東部の一部 (現状7.8cm / 幅4.1cm / 厚7.8cm) に研削痕。 |
| 24 | 249 | 石器・利器 周縁部に加えてある石器 織錦 (弥生) 3区 MI-9層-G7921 <材質(粘土・焼成)>石材: 玄武岩(辰長洞) <成形・調整>織錦表面を素材とし、素材頭部: 末端部に小剝離痕連続。縁部に剝離痕散在。 <特記> 總部が部分的に削り直し状を呈するの、風化に依るものか。 <遺存状況> 完存 長13.2cm / 幅1.6cm / 厚13.2cm |
| 24 | 252 | 石器製作済 柔石 3区 MI-9層-G7921 <材質(粘土・焼成)>石材: 黒曜石(漆黒、角錐、ガラス状光沢) <成形・調整>削離作業面を転移し、幅広扁状の削離片。高2.5cm / 幅2.5cm / 厚2.5cm |
| 24 | 253 | 石器製作済 柔石 3区 MI-9層-G7921 <材質(粘土・焼成)>石材: 黒曜石(濃い層状斑)があり、ガラス状光沢を呈す。バーミス粒を含む。 <成形・調整>片面に削離した際の1面を残すもの。高2.4cm / 幅3.1cm / 厚1.2cm |
| 24 | 268 | 石器・利器 砕石・磨製石斧 大型刮削磨石斧 (弥生) 1区 MI-9層-G8815 <材質(粘土・焼成)>石材: 玄武岩(椎原) <成形・調整>刃部への衝撃による剥離(削れ)。 <遺存状況> 断面剖析片 (長:現状7.8cm / 幅5.7cm / 厚7.8cm) |
| 24 | 279 | 石器製作済 砕石 砕石未完成品 3区 MI-7層-G7913 <材質(粘土・焼成)>石材: 黒曜石(剥離)。層状斑端。ガラス状光沢 <成形・調整>削離の両側に削離痕を加える。 長4cm / 幅1.6cm / 厚1.6cm |
| 24 | 292 | 石器製作済 砕石 2区 MI-9層-G7925 <材質(粘土・焼成)>石材: 黒曜石(漆黒、角錐、ガラス状光沢) <成形・調整>織錦表面を削りだし、削離削除(三角形)を削る。 高2.7cm / 幅1.5cm / 厚2.7cm |
| 24 | 54 | 石器・道具 砕石 2区 MI-9層-G7834 <材質(粘土・焼成)>石材: 砕石 <成形・調整>角柱状に研磨形成。各面の中央は横円形の窪みが連続して溝状となる。 <遺存状況> 貫裂、部表の一剖削痕。 剥離。 長:現状4.9cm / 幅5.5cm |
| 24 | 228 | 石器・道具 砕石 3区 MI-9層-G7825 <材質(粘土・焼成)>石材: 砕石(ホルンブッシュ用) <成形・調整>平面(平坦)として利用。多角な石器輪郭に対して斜め方向に削る。 <遺存状況> 完存 長10.6cm / 幅6.6cm / 厚0.6cm |
| 24 | 248 | 石器・道具 砕石 長石 3区 MI-9層-G7921 <材質(粘土・焼成)>石材: 小石(小川底泥か、並巻岩) <成形・調整>機の棱部にさし込む状の痕跡。底面を大きく。 <遺存状況> 完存 長14.7cm / 幅4.2cm / 厚14.7cm |
| 24 | 251 | 石器製作済 砕石 3区 MI-9層-G7931 <材質(粘土・焼成)>石材: 安山岩(分割材料か) <成形・調整>前面は削離面。打面調整(平行)で斜点打跡。 高5.5cm / 幅5cm / 厚1.5cm |
| 24 | 258 | 石器・道具 砕石 長柱形 2区 MI-9層-G7944 <材質(粘土・焼成)>石材: 砕石 <成形・調整>断面長方形。4面を研磨面とする。各面は長軸方向に、僅かに機械方向にも彫る曲面(小字で曲面のある対象物を使用したもの)。 <遺存状況> 半ばを欠く(現状2.6cm / 幅(最大)1.7cm / 厚1.5cm) / 等局部の幅15mm。厚さ5mm |
| 24 | 265 | 石器・道具 砕石 角柱形 3区 MI-9層-G67911 <材質(粘土・焼成)>石材: 砕石(アゼロック) <成形・調整>上面は削離面(下面に鋸歯状の凹凸が残る)。両面を研磨面とする。 <特記> 砕面とする面は粗く。自然剥離の可能性が残る。 <遺存状況> 半ばを欠く(現状6.6cm / 幅1cm / 厚6.6cm) |
| 24 | 288 | 石器・道具 砕石・持うち砾石 多面形 2区 MI-9層-G7944 <材質(粘土・焼成)>石材: 砕石(アゼロック) <成形・調整>石材の片面に複数の凹凸面形成。不整多面形立体を呈す。圓面に削離面が前面にあり、小さな対象物を加工したものの。 <特記> 砕面熱か削離面熱化。 <遺存状況> 片側を欠く(現状7.1cm / 幅9cm / 厚1.7cm) |
| 24 | 290 | 石器・道具 砕石 2区 MI-9層-G7945 <材質(粘土・焼成)>石材: 砕石(軟質) <成形・調整>板状の上下面に削離面(凹面を形成)。 <遺存状況> 部分(断面化) |
| 24 | 95 | 石器・道具 未分類 3区 MI-9層-G7911 <材質(粘土・焼成)>石材: 砕石(滑面) <成形・調整>石材: 滑面(偏平な円錐) <成形・調整>石材の中央部に表面からの削離打による穿孔(孔の径10mm)。 <遺存状況> 半ばを欠く(現状4.1cm / 幅5.6cm / 厚4.1cm) |
| 24 | 99 | 石器・道具 穿孔 (弥生/前期) 3区 MI-9層-G7941 <材質(粘土・焼成)>石材: 砕石(軟質) <成形・調整>全面を敲打成形。穿孔部とする。一端は、漏斗状となり(器面平滑、断面圓形状態、凹面による形成か)、体部との境界は段を成す。 <遺存状況> 部分欠く(現状10.2cm / 幅5.8cm / 厚10.2cm) |
| 24 | 227 | 石器製作済 柔石 剥片 3区 MI-9層-G7825 <材質(粘土・焼成)>石材: 青白石(解体材) <成形・調整>片側は筋面理由。 末端は折れ。 打面は継面。 |

| 図 | 説明 | 遺物記述 |
|----|-------------------|---|
| 26 | 石器・器具 台石 | 2区 MI-9-解-67944 <材質(粘土・焼成)>石材: 砂岩(分割材か) <成形・調整>上面に複数の凹面、側面には複数の削割面により多面体状。 <遺存状況>断片 (現状) 5.3cm / 幅(最大) 5.3cm |
| 26 | 石器・器具 両縁部に加工のある石器 | 1区 MI-9-解-67843 <材質(粘土・焼成)>石材: 玄武岩(粗面、風化程度弱)。縦長削り <成形・調整>素材が長い片側斜の表面に小刻痕連続。縁部は打ち削し状を呈する。素材打面は継面。 長: 7.8cm / 幅: 6.6cm / 厚: 7.8cm |
| 27 | 2 木器・道具 三又鍬(弥生) | 1区 MI-9-解-68922 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類。 <成形・調整>器皿の遺存不良で、調整の詳細は不明。刃部先端部は研磨(あるいは磨耗)し、滑らかな丸みをもつ。柄孔は楕円形。刃部と柄は直角よりやや小さな角度で交差。 <遺存状況>片側を欠く。器表の遺存不良。長: 25.1cm / 幅(現状) 14.1cm / 厚(埋蔵部) 2.5cm / 厚(身部) 2.0cm。 |
| 27 | 17 木材 板材 | 1区 MI-9-解-68921 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類+ <u>(みかん削り材)</u> <成形・調整>薄い削り材。一端が斜めに削げているが、意図したのか否かは不明。削取り後の形態は不明。 <遺存状況>部分欠 長(現状) 66.2cm / 幅 6.6cm / 厚 0.2cm |
| 27 | 18 木器・部材 建築部材か | 1区 MI-9-解-68931 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類+ <u>(みかん削り材)</u> <成形・調整>薄い削り材。削り取り後の形態は不明。 <特記>若しくは、板材。 <遺存状況>ほぼ完全な長: 73.5cm / 幅 11cm / 厚 7.5cm |
| 27 | 31 木器・部材 柄 | 1区 MI-9-解-68845 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類か(脇材) <成形・調整>断面横円形の棒に棒形、全面を研削か。 <特記>柄部と同一個体か。 <遺存状況>断片 長 (8.5cm) と併せて 13.2cm / 長径3.5cm / 短径3.2cm / 長さは、2点を足した数値。 |
| 27 | 46 木器・部材 建築部材 | 1区 MI-9-解-68845 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類か(みかん削り材) <成形・調整>削り材を板状に整形、両端部と、両側面を面取り。両面を削り厚さを調整している(亀甲状の削り面が残る)。 <特記>若しくは板材 <遺存状況>部分欠 長 115cm / 幅 14.1cm / 厚 11.5cm |
| 27 | 48 木器・部材 建築部材 | 1区 MI-9-解-68813 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類か(みかん削り材) <成形・調整>削り材の両側面を面取り(桟部も面をとっているように見える)。 <特記>若しくは、板材。 <遺存状況>両端欠 長 (現状) 35.7cm / 幅 10.5cm / 厚 35.7cm |
| 27 | 50 木器・部材 柄 | 1区 MI-9-解-68845 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類か(脇材) <成形・調整>長軸方向の切削により端部(梢部)側に丸く、断面横円形に整形。端部(梢部)は、切り込みの後折り取ったものか(中央部に折れ面残置)。 <遺存状況>柄尻部 長(現状) 22.8cm / 長径4.5cm / 短径2.8cm / 太さは断面部分。 |
| 27 | 106 木器・部材 直頭鉈 | 3区 MI-9-解-67921 <材質(丸木材)>木材: 濁種不明(丸木材) <成形・調整>細かな削りにより一時に断面横円形の筋織を作成。基部側は、現状抜て、削れ面となっている(剥ぎ取りか否かは不明)。 <特記>若しくは丸。 <遺存状況>前端部を丸く 長(現状) 63.5cm / 幅 3.3cm |
| 27 | 579 木器・部材 | 1区 MI-9-解-68922 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類(芯持材) <成形・調整>断面横円形に整形。 <遺存状況>断片 長 (現状) 25.3cm / 長径 3.5cm / 短径 2.5cm |
| 27 | 580 木器・部材 | 1区 MI-9-解-68935 <材質(粘土・焼成)>木材: カシ類(脇材) <成形・調整>棒状。断面横円形に整形。平滑に研削。端部(梢部)は丸く収める。 <特記>棒3と同一個体か。 <遺存状況>端部断片(柄尻部) 長 (現状) 5.4cm / 長径 7.5cm / 短径 5.4cm |
| 30 | 80 木器・部材 丸木杭 | 2区 MI-2 <材質(粘土・焼成)>木材: 種種不明(丸木材、低木の幹削り) <成形・調整>先端部に尖端を形成せぬ。先端部削缺。 長(現状) 15.4cm / 径 2.1cm |
| 30 | 81 木器・部材 丸木杭 | 2区 MI-2 <材質(粘土・焼成)>木材: 種種不明(丸木材) <成形・調整>細かな削りにより一時に断面横円形の筋織を作成。基部側は、現状抜て、削れ面となっている(剥ぎ取りか否かは不明)。 <特記>若しくは丸。 <遺存状況>先端部削缺 |
| 30 | 82 木器・部材 丸木杭 | 2区 MI-2 <材質(粘土・焼成)>木材: 種種不明(カシ類か、丸木材、枝材の利用か) <成形・調整>先端部に尖端を形成しない。 <遺存状況>頭部欠。 長(現状) 15.9cm / 径 1.8cm |
| 30 | 83 木器・部材 丸木杭 | 2区 MI-2 <材質(粘土・焼成)>木材: 種種不明(丸木材) <成形・調整>先端部は切削面のままで尖端を形成せず、丸頭を生じている。 <遺存状況>頭部欠。 長(現状) 9.9cm / 径 2cm |

報告書類別表 (遺物番号) 表 9

| 遺物番号 | 報告回 |
|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|------|-----|
| 2 | 27 | 216 | 21 | 297 | 22 | 355 | 22 | 493 | 20 |
| 16 | 21 | 217 | 21 | 300 | 21 | 356 | 23 | 494 | 20 |
| 17 | 27 | 218 | 21 | 301 | 23 | 368 | 23 | 498 | 22 |
| 18 | 27 | 219 | 21 | 307 | 23 | 371 | 23 | 506 | 22 |
| 28 | 24 | 220 | 24 | 308 | 21 | 373 | 21 | 510 | 21 |
| 31 | 27 | 221 | 21 | 309 | 23 | 380 | 22 | 516 | 22 |
| 46 | 27 | 222 | 21 | 313 | 21 | 381 | 21 | 518 | 22 |
| 48 | 27 | 223 | 21 | 315 | 23 | 385 | 23 | 519 | 23 |
| 50 | 27 | 224 | 21 | 316 | 23 | 388 | 23 | 521 | 21 |
| 54 | 25 | 225 | 23 | 317 | 23 | 399 | 23 | 522 | 23 |
| 64 | 24 | 226 | 21 | 318 | 22 | 400 | 21 | 523 | 22 |
| 80 | 30 | 227 | 26 | 320 | 23 | 405 | 23 | 536 | 23 |
| 81 | 30 | 228 | 25 | 321 | 21 | 410 | 23 | 540 | 21 |
| 82 | 30 | 229 | 24 | 322 | 23 | 412 | 23 | 543 | 22 |
| 83 | 30 | 230 | 21 | 324 | 22 | 414 | 22 | 544 | 23 |
| 95 | 26 | 231 | 21 | 326 | 22 | 415 | 22 | 549 | 23 |
| 99 | 26 | 248 | 25 | 327 | 23 | 435 | 22 | 553 | 21 |
| 151 | 22 | 249 | 24 | 331 | 22 | 440 | 22 | 554 | 23 |
| 106 | 27 | 252 | 24 | 332 | 22 | 442 | 22 | 555 | 23 |
| 111 | 24 | 253 | 24 | 333 | 22 | 447 | 23 | 559 | 21 |
| 113 | 24 | 254 | 25 | 336 | 22 | 453 | 23 | 560 | 23 |
| 201 | 21 | 258 | 25 | 337 | 22 | 454 | 21 | 561 | 23 |
| 202 | 24 | 264 | 26 | 338 | 22 | 457 | 21 | 562 | 23 |
| 203 | 24 | 265 | 25 | 340 | 22 | 458 | 22 | 565 | 21 |
| 205 | 23 | 268 | 24 | 342 | 23 | 461 | 21 | 566 | 21 |
| 206 | 20 | 272 | 26 | 343 | 22 | 467 | 21 | 567 | 22 |
| 208 | 24 | 279 | 24 | 345 | 21 | 471 | 20 | 569 | 22 |
| 209 | 20 | 288 | 25 | 346 | 22 | 472 | 20 | 570 | 22 |
| 210 | 21 | 290 | 25 | 347 | 23 | 478 | 23 | 573 | 23 |
| 211 | 21 | 292 | 24 | 350 | 23 | 479 | 23 | 574 | 23 |
| 212 | 21 | 293 | 23 | 351 | 23 | 481 | 23 | 575 | 22 |
| 213 | 21 | 294 | 22 | 352 | 23 | 483 | 23 | 579 | 27 |
| 214 | 20 | 295 | 22 | 353 | 23 | 488 | 22 | 580 | 27 |
| 215 | 21 | 296 | 21 | 354 | 22 | 489 | 21 | | |

| 報告書抄録 | | | | | | | |
|------------------------|--|------------|------|------------|------------|---------------------------|------------------------|
| ふりがな | ひえ 75 | | | | | | |
| 書名 | 比恵75 | | | | | | |
| 副書名 | 比恵遺跡群第135次調査報告 | | | | | | |
| シリーズ名 | 福岡市埋蔵文化財調査報告書 | | | | | | |
| シリーズ番号 | 2197 | | | | | | |
| 編著者名 | 杉山富雄 | | | | | | |
| 編集機関 | 福岡市教育委員会 | | | | | | |
| 所在地 | 〒810-8621 福岡県福岡市中央区天神一丁目8番1号 TEL 092-711-4667 | | | | | | |
| 発行年月日 | 2016年3月25日 | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード 市町村 | 道路番号 | 北緯 | 東経 | 発掘期間 | 発掘面積 m ² |
| ひえ 比恵遺跡群 (第135次) | ふくおかんふくおか 福岡県福岡市 はかたくはたとみみなみさんちよさか 博多区博多駅南3丁目 | 40130 | 309 | 33°34'58" | 130°25'39" | 20141014 ～ 20141128 | 404 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | | |
| 比恵遺跡群 | 集落 散布地 | 弥生時代 | 杭列 1 | 弥生土器・木器・石器 | | | |
| 要約 | <p>調査地は、比恵遺跡の立地する中位段丘を浸食する浅い谷の奥部に東岸に位置する。調査区の大部分は谷にかかり、谷底に堆積した泥炭質の粘土層から、弥生時代前期から中期前半にかけての土器、木器類、石器類が出土した。隣接する80次調査区同様、土器は細片化しており、24次・25次調査区ほかで調査したような谷奥から西岸を中心とした遺物包含層の周縁部に当たるものか。</p> <p>遺構は、谷底で四隅に細い杭を打ち込んだものを検出した。台地部は削平を受けており、小穴が僅かに遺存するのみである。</p> | | | | | | |

福岡市埋蔵文化財調査報告書 第1297集

比恵75

— 比恵遺跡群第135次調査報告 —

2016(平成28)年3月25日発行

発行 福岡市教育委員会

福岡市中央区天神1丁目8番1号

印刷 松影堂印刷株式会社

福岡市博多区吉塚3丁目13番40号